

# 古今要覧見稿

器部 百四

器部

百四

百五

和書門	特別	二七九七	第六十五番函	一七九
類	類	號	函	冊

内閣文庫	
番號	和 27797
冊數	179 ( 59 )
函號	圖 65 1

一七九



裏面記載のない箇所は省略



古今西女臨見稿

器財

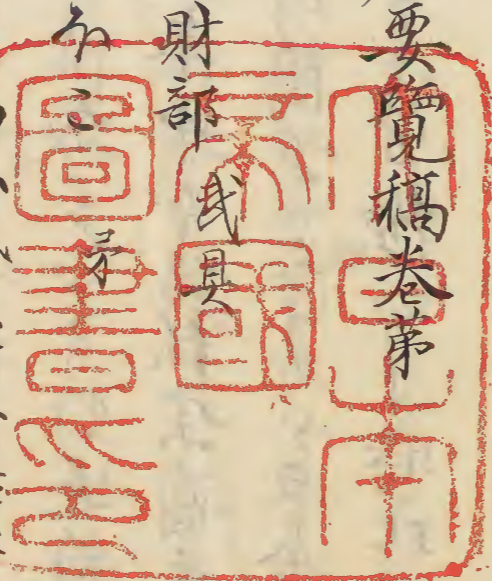
不夫



古今要覽稿卷第...

古今要覽稿卷第

器財部



明治十三年購求

源弘賢著



予には神代年伊弉諾伊弉尊天の浮橋の上より立  
給ふこのわふ國ありありと天に瓊茅と  
給ふてこのわをさうまもすれと記す  
疑く一乃島とす  
古事記日本書紀  
神皇正統記  
大己貴神この國を細戈千足の玉と名付け  
天孫の降らせ給ひ一時昔國を平け一時杖給ふ



方唐戎を侮いし世後世このあことを中國を治  
めしむるに平安なるべしと日本書紀古語拾遺  
海神功皇后新羅を乞ふ給ふ時そは杖を  
所の矛を新羅王の門をたぐへ後世の志を  
せしむるに日本書紀いふは皇國の兵器みくこれ  
より始りしをたひあし日向國霧島山より  
そそるあつとこの逆鋒なりといふつるなり  
文化年中か何孫宗圓薩摩國より寫來り天  
逆鋒圖ありとす日本武尊に詔して東夷を  
せしむる給ふ時比々羅木八尋矛を賜ふる

いふふも如何なるものみや文武天皇の大寶三  
年に献杜谷楯長八尋曰まゝ同年夏四月献杜谷楯  
八尋梓根と續日本紀まゝとす本居宣長も  
梓を梓根と云ふは古物小根といふ言を添く云々  
例多し梓キも古書小キの借字に用ひるは子泥ハ  
添く言なり屋根岩根島根等とも同しといふ  
ふはねとともいふ倭名抄に矛とてあること  
訓するをみれば梓キとす梓キとあるも海に矛  
れとれ多あり西土みくも周武王討をありけり  
時立尔矛予其柝言るとあるみく殷周の比とも盛



に世ふ用ゆると云々は、  
を矛といふ丈二尺を稍といふと  
首矛夷矛といひく首と二丈夷と二丈四尺と  
考工 ありとれとも皇朝ありとも辨大は、  
といふ多は、  
也その四、  
長短廣狹の差別も、  
武天皇伊寶物圖小載る、  
三角那ると、

義經記平家物語長門本  
三角那ると、

と、

古事記云於是天神諸命以詔伊邪那岐命伊邪那美命二柱神脩理固成是多陀用幣流之國賜天沼矛而言依賜也

又云又天皇以三宅連等之祖名多遲麻毛理遺常  
世國令求登岐士玖能迦玖能木實  
遲麻毛理遂到其國採其木實以縵八縵矛八矛將  
来之間天皇既崩尔多遲麻毛理分縵四縵矛四矛  
献于太后以縵四縵矛四矛献置天皇之御陵戸而



擊其木實

又云爾コニスラ天皇亦頻詔倭建命言向和乎東方十二道ノアラフル之荒夫琉神及摩都楼波奴人等而副吉備臣等之祖名御鈕友耳建日子而遣之時給比オヤナハミスキトモミ、クケヒコラツヘテツカハストキキヒ、ラキノヤヒコホコシ二羅木之八尋矛クマヒキ比ニ羅三故受命罷行之時云カレミコトヲウケタマハリテストキニ二

日本書紀云伊弉諾尊伊弉册尊立於天浮橋之上共計曰底下豈無國歟迺以天之瓊ソコシキ瓊ソコシキ玉也此瓊玉也矛指下而探之是獲滄溟其矛鋒滴瀝之潮凝成一島名之曰礮馭盧島

又云猿女君遠祖天鈿女命則手持茅纏之稍立於

天石窟戸之前巧作俳優

又云大己貴神云ニ乃以平國時所杖之廣矛授ニ神曰吾以此矛卒有治功天孫若用此矛治國者必當平安

又云昔伊弉諾尊目此國曰日本者浦安國細戈千足國磯輪上秀真國秀真國此云袍圖并句你

又云春三月甲子朔戊寅天皇夢有神人誨之曰以赤盾八枚赤矛八竿祠墨坂神亦以黑盾八枚黑矛八竿祠大坂神云ニ

又云春三月乙丑朔丙寅天皇幸山背時左右奏言



之此國有佳人曰綺戶邊姿形美麗山背大國不避  
之女也天皇於是執矛祈之曰必遇其佳人道路見  
瑞比至于行宮大龜出河中天皇舉矛刺龜忽化為  
白石謂左右曰因此物推之必有驗乎仍喚綺戶邊  
納于後宮

又云秋九月令諸國以國郡立造長縣邑置稻置並  
賜楯矛以為表

又云秋九月庚午朔己卯令諸國集船舶練兵甲時  
軍卒難集皇后曰必神心焉則立大三輪社以奉刀  
矛矣軍卒自聚

又云冬十月己亥朔辛酉皇后曰初兼神教將授金  
銀之國又號令三軍曰勿殺自服今既獲財國亦人  
自降服殺不祥乃解其縛為飼部遂入其國中封重  
寶府庫收圖籍文書即以皇后所杖矛樹於新羅王  
門為後葉之印故其矛今猶樹于新羅王之門也  
又云刺領中侍其誣言獨執矛以伺仲皇子入廁而  
刺殺即隸于瑞齒別皇子

又云大臣所遣群卿者從來如嚴牙嚴牙此云伊取  
中事而奏請人等也トモミルヲフメモトモフス

又云於是勇敢士曰大分君稚臣則棄長矛以重



擐甲拔刀急蹈板度之便断着板網以被矢入陣衆  
悉而亂散走之

續日本紀云大寶二年正月造官職献社谷樹長八

尋俗曰比二良木

又云同年夏四月秦忌寸廣庭献社谷樹八尋梓根

遣使者奉于伊勢大神宮云二

又云天平勝寶四年二月云二甲作弓作矢作梓削

鞍作云二

古語拾遺云于時天照大神赫怒入于天石窟云二

令手置帆負彥狹知二神作天御量大小斤雜番伐

大峽小峽之材而造瑞殿古語美豆乃兼作御笠及

矛楯

又云又令天鈿女命以真辟葛為鬢以蘿為手繩以

竹葉飴鮎木葉為手草手持著鐸之矛而於石窟前

覆誓槽舉庭燎巧作俳優相與歌舞

又云即以八咫鏡及草薙劍二種神寶授賜皇孫永

為天璽所謂神璽是也矛玉自從

又云又令天富命率齊部諸氏作種二神寶鏡玉矛

盾木綿麻等

又云又手置帆負命之孫造矛箒其囊今分在讚岐



國每年調庸之外貢八百竿是其事證也

又云饒速日命帥內物部造備矛盾

又云然後物部乃立矛盾大伴來目建仗開門令朝

四方之國以觀天位之貴

釋日本紀云私記曰師說以茅纏其矛也必以茅者

蓋取潔白之義歟

又云私記曰問大己貴神曰吾以此矛卒有治功天

孫若用此矛治國者必當平安云云此矛今在何處

哉荅雖為三種寶物之外此矛有治國之名已奉獻

天孫定傳之後棄與然而所在不詳但如此神屍上

古多納石上神宮若今彼神宮與古事記曰天皇亦

類詔倭建命言向和平東方十二道之荒夫

倭名類聚鈔云釋名云手戟曰矛人所持也亦作鉞

和名天保古

大寶令云凡私家不得有鼓鉦弩矛稍具裝大角小

角及軍幡義解云謂鼓者皮鼓也鉦者金鼓也所以

左經記云平文鉞一本在鐵

水鏡云安尔時有人在水入

之後一云二

後二年合戰記云城中有男女



を取陣のうらみあき来り男の首も辨り  
せりき忠子ゆく女もなみくをさしあふ  
ゆく云々

又云次任う郎木家衛う首を辨にさく  
法政と縣殿の手はくりにはとせん  
みーつとける云々

平家物語長門本 入道相国可押  
寄院所系 云々此の安藝  
守と下一時いつくゆの社より神辨の次  
い夢を蒙りそまうけらねふ  
志るふ秘藏の手辨はねふ枕をさる

けり此左に服ふともみ云々

又 義仲押寄法  
住寺殿系 云知康も赤地錦の直垂  
鎧もさあり甲も甲のり

王の像を繪り書く甲に右の  
なみり左れもみり鋒をほき云々

源平盛衰記 入道院参  
企ノ系 云ウツ、ニモ實ニ有ケル

銀ノ蛭巻シタル手鋒ノ秘藏シテ常ニ枕シ不  
被立タル鞘ハツシ左ノ服ニ挟テ中門ノ廊ニ被  
立タリ

義経記 伊勢三郎義経  
臣下に安る系 云年比比廿四五計



男の何れの處をけしめ浅黄の直垂を崩黄威  
の腹巻ふ太刀をいづく大のちぢに紙杖ふけし  
又鬼一法云法眼是を聞くけるけ者たるけり  
て對めんせんとき出するすしの直垂を  
しし紙をすまけしききり中なるの  
いよほく引くく火のちぢに紙杖をけし  
んいづくとみするし云  
又土佐房義経の討手に上る条云おとめとの方よりきり  
と一尺二寸有けふてちぢひるほく白く  
ちぢあかいはをぬきふきりておとめ

又判官北國落条云とついのちけを大くちぢ入る

ほくちぢを杖けしきりひもそ出ふける

百練鈔云七月六日有軒廊御上安樂寺言上者嘉

禄元年五月比豊後國津江山住人等於彼峯作畠

之間堀出金銅銚二枚事

沙石集云洛陽ニ或武士ノ郎等下人ノ手銚ヲ又

スメルヲトラヘテ柱ニシハリ付テヲノレカホ

シカル物トラセントテ手銚ノサキニテ身ヲア

マ子クサシケリ

庭訓往来云太刀者兵庫鑠鳥頸皆彫物シトキ鑿ヒキ金



作左右卷白柄長刀同手鉞云

異制庭訓徃來云太刀百振云二手矛等百枝進候

書牧誓云称爾戈比爾于尔矛其誓注云矛長故立之於

地

禮曲礼云進矛戟者前其鏃進几杖者拂之云二注

三矛如鏃而

周礼考工云酋矛常有四尺夷矛三尋注云八尺曰尋倍尋曰常

酋夷長

史記仲尼第云今竊聞大王將興大義誅疆救弱困

暴齊而撫周室請悉起境内士卒三千人孤請自被

堅執銳以先受矢石因越賤臣種奉先人藏器甲二

十領屈盧之矛步光之劍以賀軍吏吳王大說注云

名矛



詩教

詩經國風鄭之三

詩經國風鄭之三

龜詩

經鄭風

清人在彭駟介旁二二矛重英河上乎

翱翔清人在消駟介庶二二矛重喬河上乎逍遙清

人在軸駟介陶二左旋右抽中軍作好

秦之三

如秦風云四牡孔阜六轡在手車上伐駟孔羣去矛

釜錡蒙代有苑虎韞鏃膺交韞二弓竹閉緄滕言念

君子載寢載興厭二良人秩二德音



詩歌

詩經國風鄭一之七

清人在彭駟介旁二 二牙重英河上乎翱翔

清人在消駟介庶二 二牙重喬河上乎逍遙

又秦一之十二

伐駟孔羣九牙塗錚蒙代有苑虎報鏤膺交報二弓  
竹閉緄滕言念君子載寢載興厭二 良人秩二 德音



詩歌

*[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]*

歌

萬葉集卷第十 秋雜 歌

七夕

ヤナホヨノカミノミヨヨリトモシツマヒトシリニケリツキテシオモハ  
八千戈神自御世之嬾人知爾来告思者

夫右柿本朝臣人磨歌集出

神樂歌注秘抄

鉾

本

此方こいつのちをせあめんとよをう姫のまのち也  
愚按此方ハ先の杖のちと同ら也 太刀鉾と



此神社の宝物の中ふあれとらり物よとらる  
城をば

末

よも山の人のちりふす群を神のむす人よ祝ひはる  
思案よけふ又先のうけふとふ同也

夫木和詩集卷第三十四 雜神

神祇

大納云隆季

久安百首

神々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々々

藻塩草

かゝ山の嶺ふも、群運たそそみうけ玉いよの人のたち

我意とあこれ福ちとそくらかこめ始めをりも人ふそし



同上録真上ヨリ見所繪取

三三一年司文化奈商年本阿彌宗圓遊于薩州得此圖

其間七寸六分

其間九寸六分

其間三寸五分

其間一尺六寸五分

其間一尺二寸五分

其間八寸三分

其間六寸四分

其間一尺七寸五分

其間一尺九寸

其間一尺二寸五分

其間一尺二寸五分

其間一尺二寸五分



# 天逆鉾圖

内化 奈酉年本阿彌宗圓遊于薩州得此圖  
平田篤胤云信物ふるや否  
此處南方鉾折跡見北上方相并所折跡アリ

惣長四尺貳寸八分  
鋒一體丸シ  
但所ニ大小異  
朽免處ナリ

鼻長二寸六分

頬ト見エ高クアリ

此處七寸五分廻

此處八二分

此邊七寸六分廻

此間七寸六分

霧島山絶頂鋒南之  
方ニ向所ノ繪形  
但北之方同様南  
北共ニ横ト見エ

此處壹尺壹寸廻リ

此處七寸五分廻リ

鼻長二寸九分

頬ト見エ高クアリ

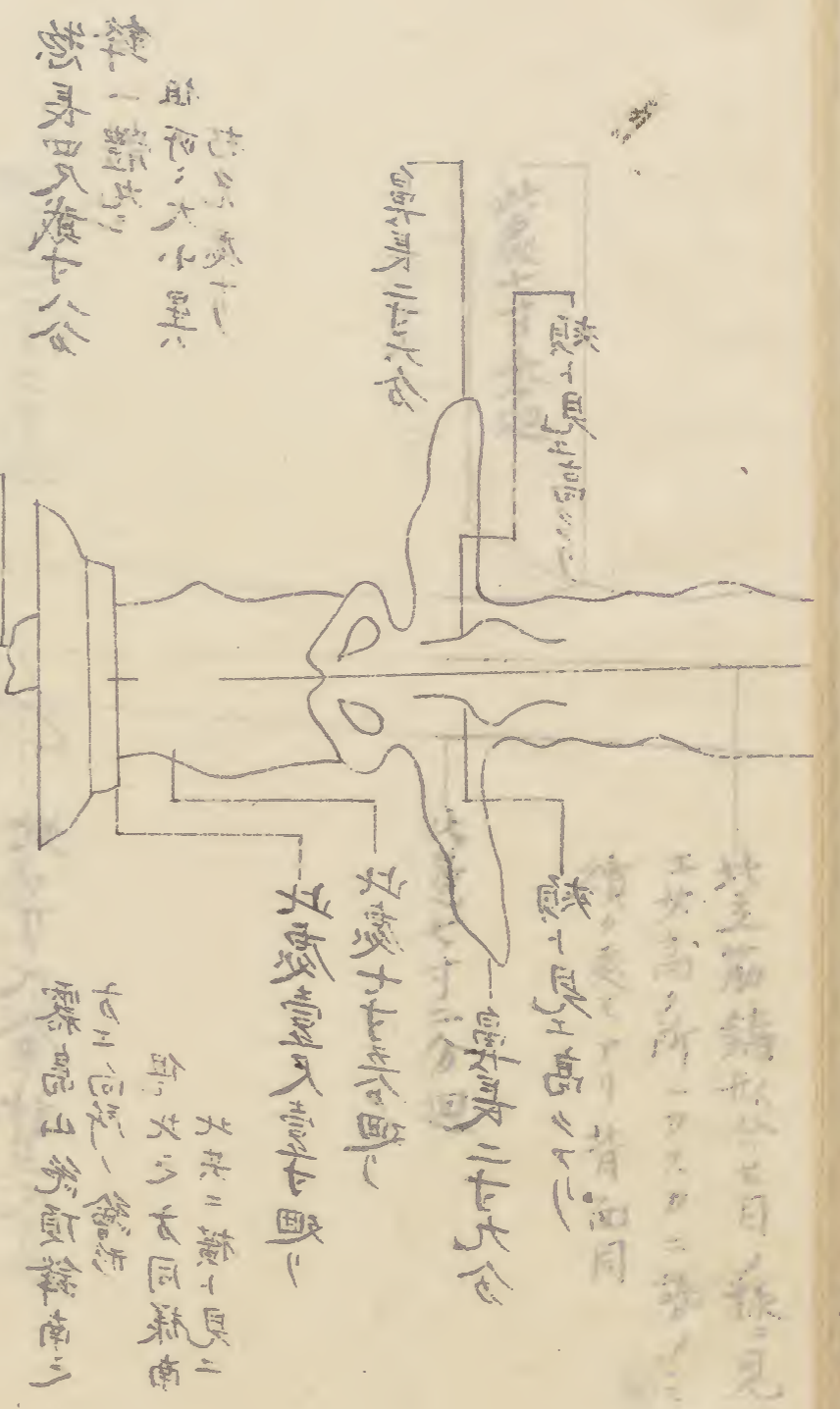
此立筋鑄形合セ目ノ様ニ見  
エ女高ク所ニカスカニ執クノミ  
續ク處モアリ背面同

此邊七寸二分廻

此邊迄地中ニ立込是  
ヨリ上五六寸雜石ニテ  
築立有之

此ソリ八分計





天正鋒圖

此圖乃繪於鏡良正六寸五分三釐所製之  
 天正鋒圖也其形如羊本所藏京國也于前所繪大圖

此乃鏡良正  
 所製之大小異  
 鋒一釐也  
 總長四尺六寸八分

此乃鏡良正  
 所製之大小異  
 鋒一釐也  
 總長四尺六寸八分

此乃鏡良正  
 所製之大小異  
 鋒一釐也  
 總長四尺六寸八分

同上鋒真上ヨリ見ル所ノ繪形  
 但外廻鍔之様ニ見ユ大概壹尺八寸廻



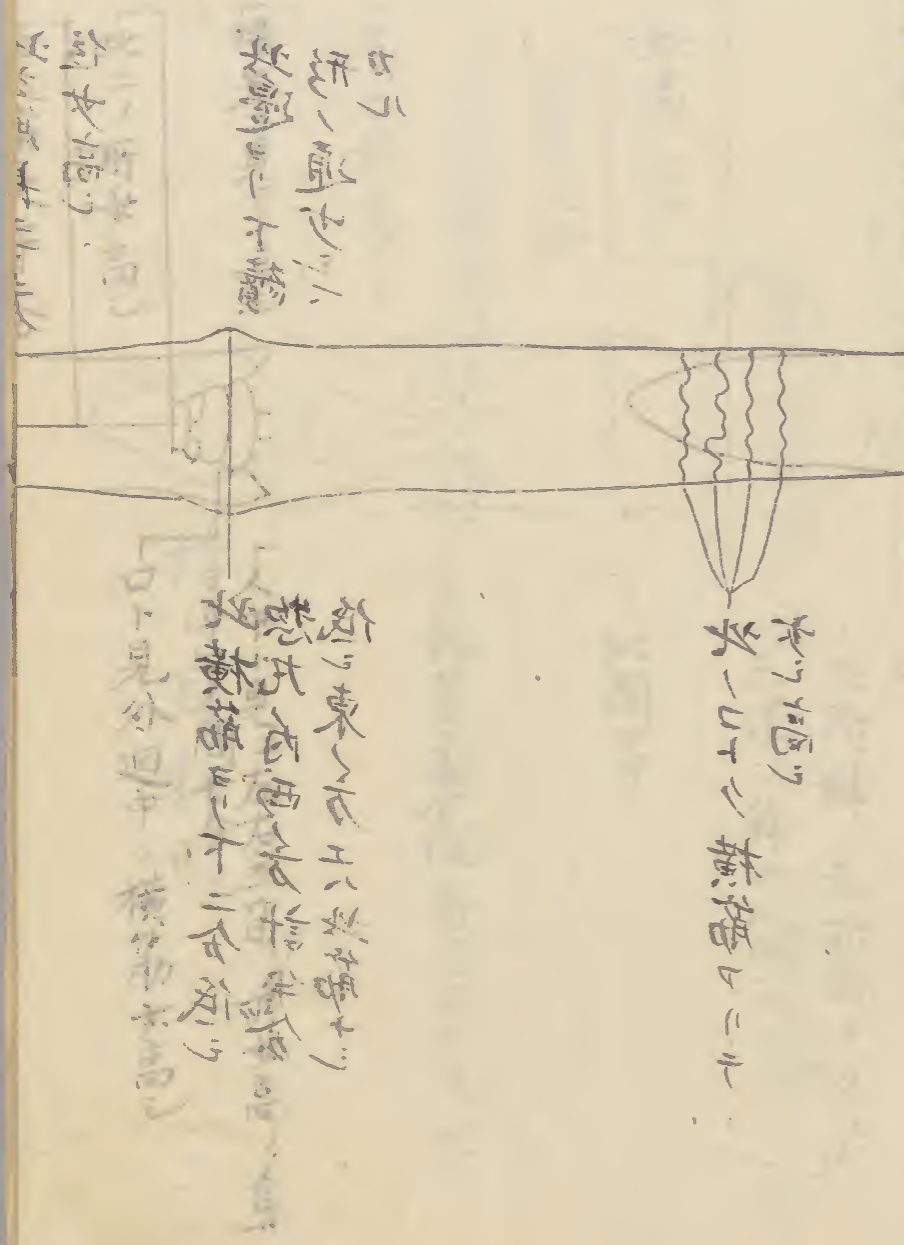
此三所鋒先折レ跡ト  
 見ユ



都城安永村明観寺荒嶽権現神體正面形所爲島

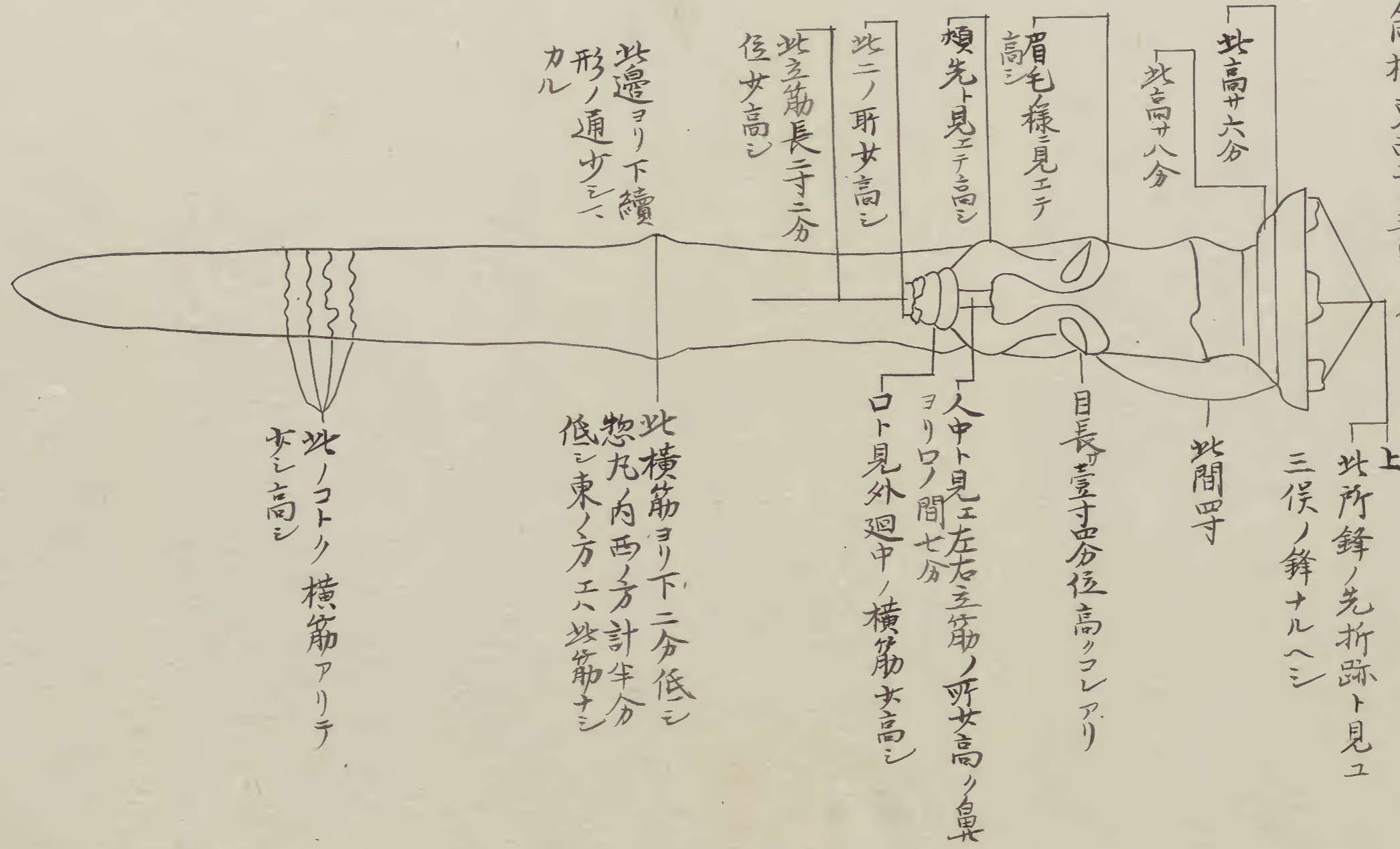
同上鋒西方方向所繪形

且東方司儀東西共ニ正面ト見エ

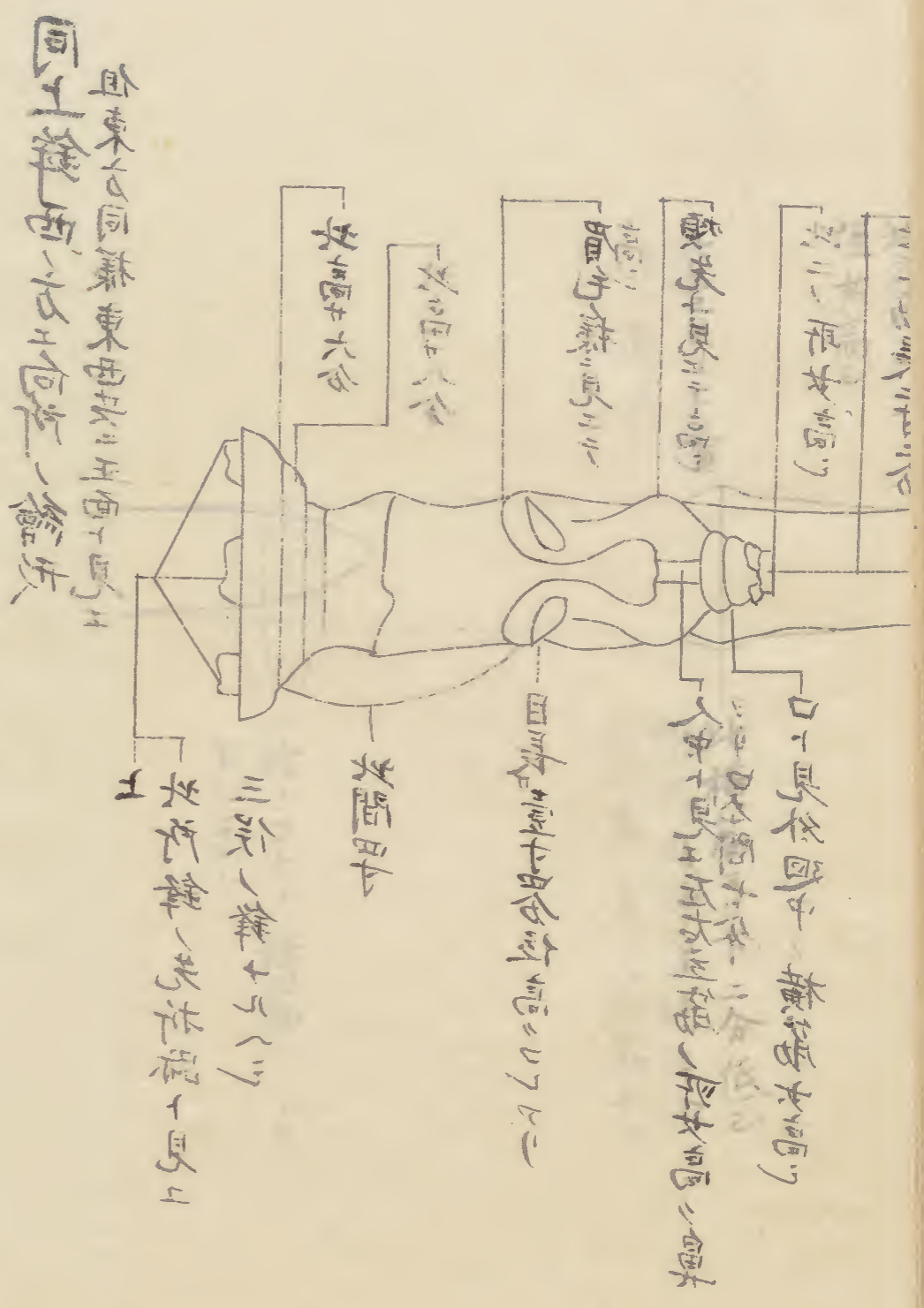




同上鋒西ノ方エ向所ノ繪形  
但東方同様東西共ニ正面ト見エ



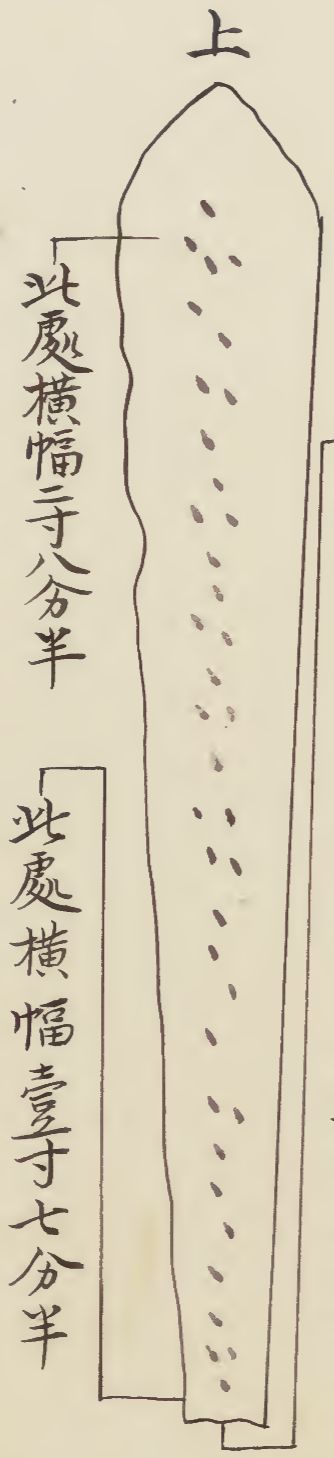




東に同新東西に五箇下馬  
同上峰西に下馬並に繪成

都城安永村明觀寺荒嶽權現神體正面形露務島  
山絶頂鋒折先ト云  
處ニ大小異朽充所ナリ

此折目絶頂ノ鋒折目ト相違<sup>違</sup>ス此間今折有ヤ



折目押形

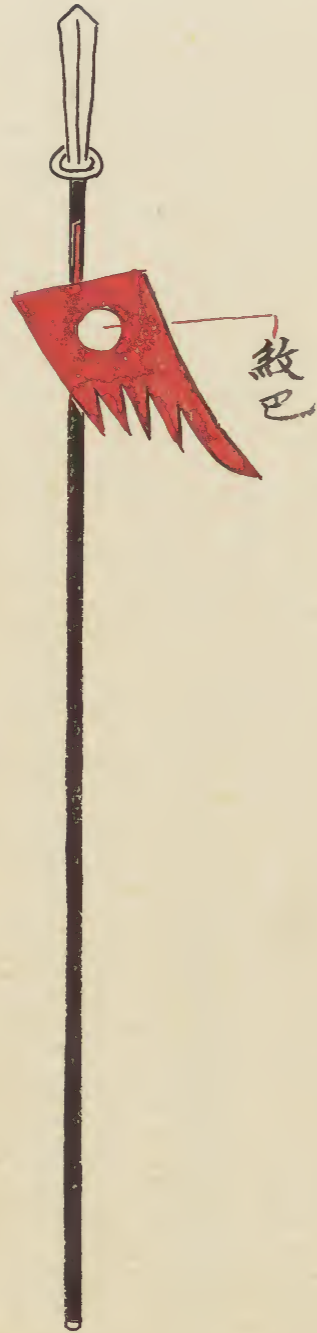


惣長壹尺七寸二分  
脇ノ方繪形



内宮御神寶之圖所載御碎

二十四竿  
尺内



紋巴

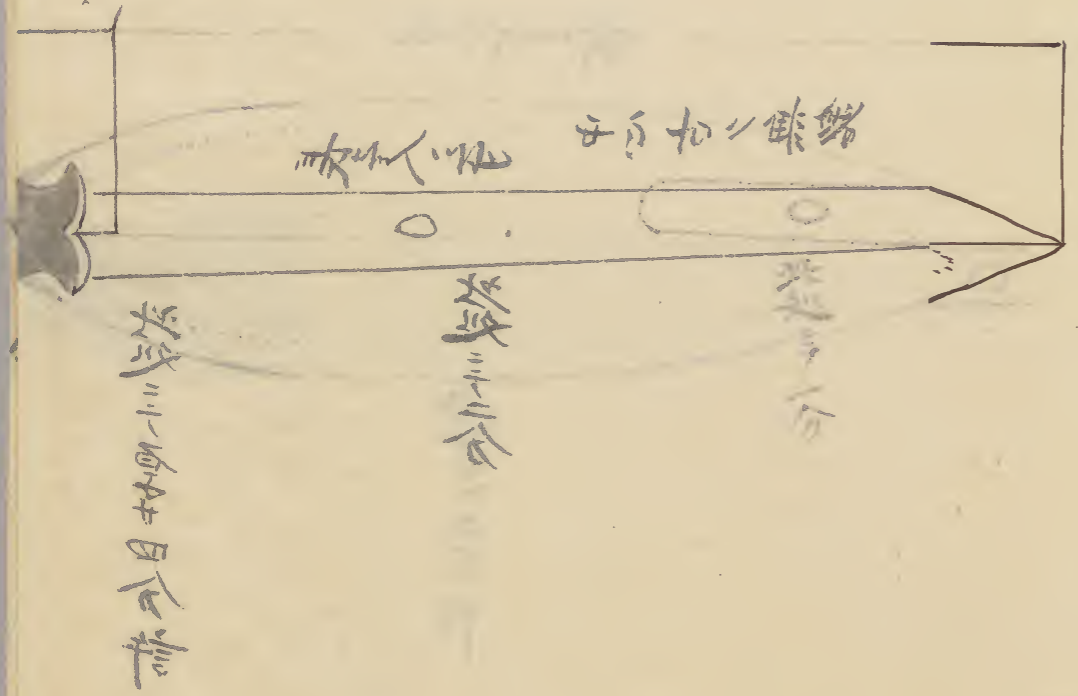


外宮御神寶之圖所載御鉞



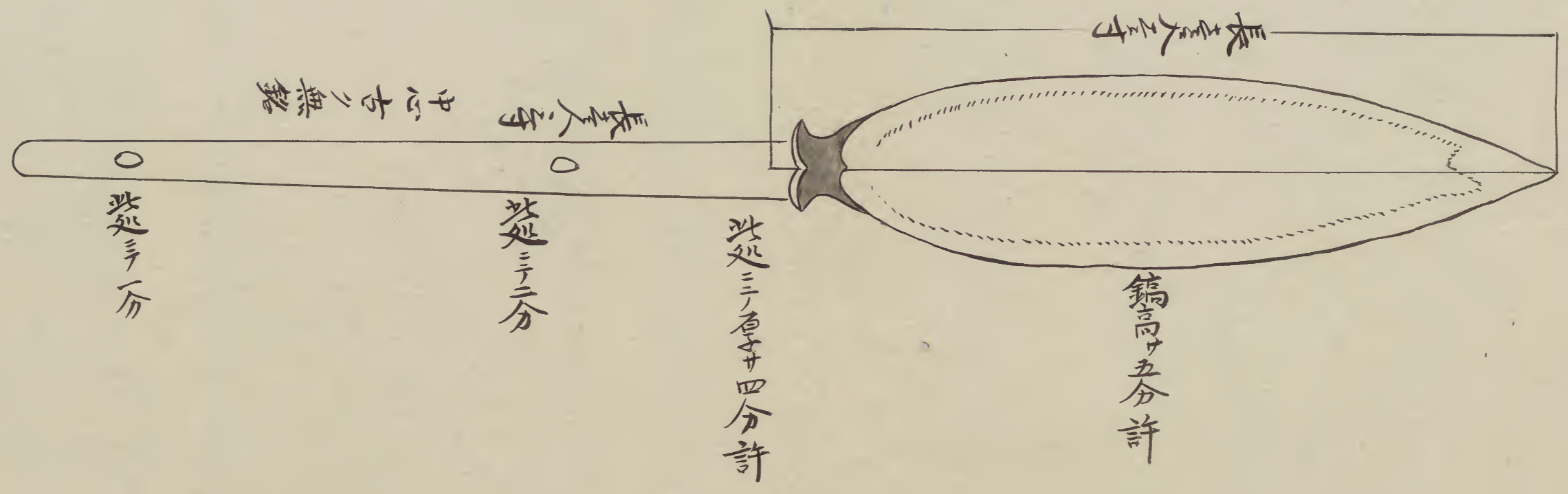


同上来  
 澁谷金王丸鉾圖表



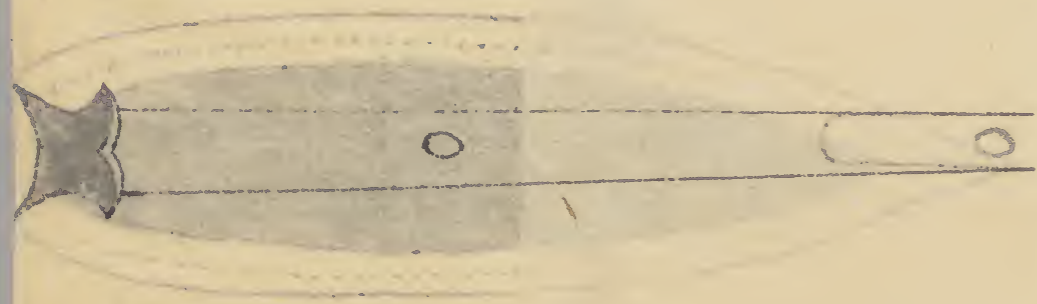


澁谷金王丸鉞圖表



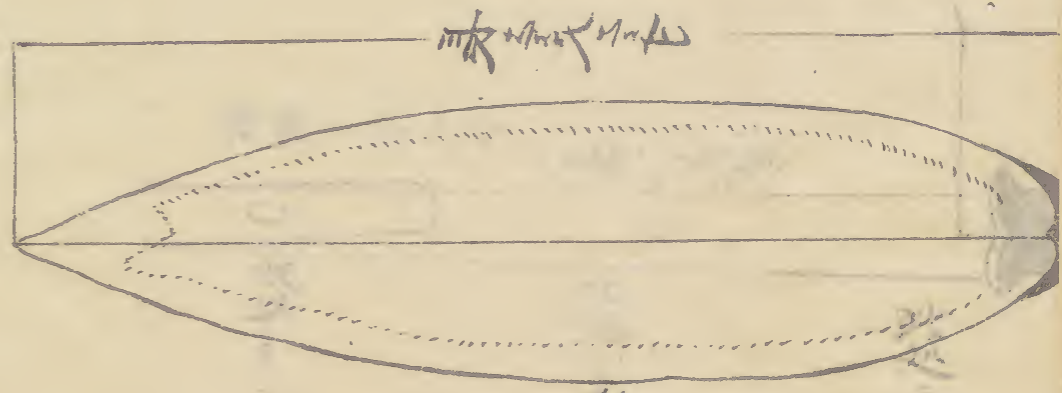


安齊雜錄所載石山寺  
手鐲  
同上裏



通長中三寸五分許

我谷金王尺輪圖  
裏



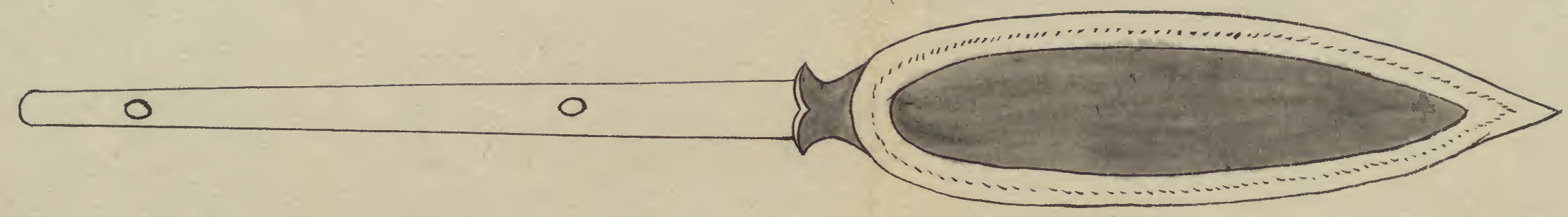
我谷金王尺輪圖

鑲嵌石寸許

此是手鐲寸四分許



同上裏



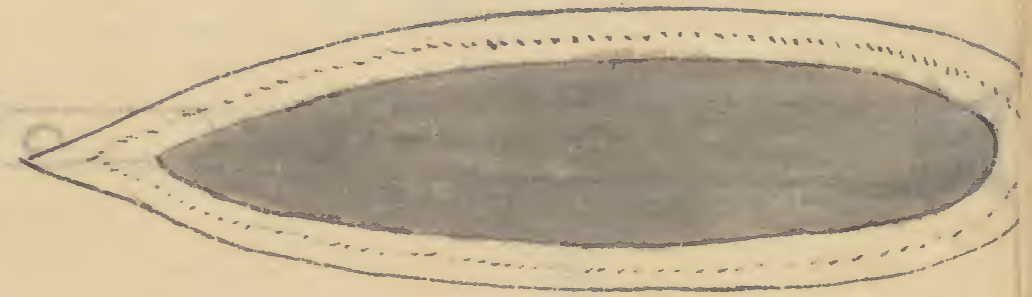
樋澤中三金三許





安齋雜錄所載  
天保二年  
 石山寺  
 手鉞

同土裏  
 安齋雜錄所載



安齋雜錄所載

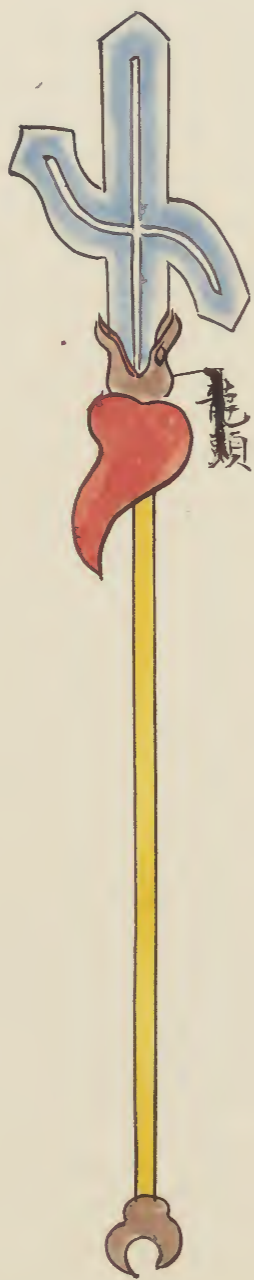


本朝軍器考圖式所載ホコ





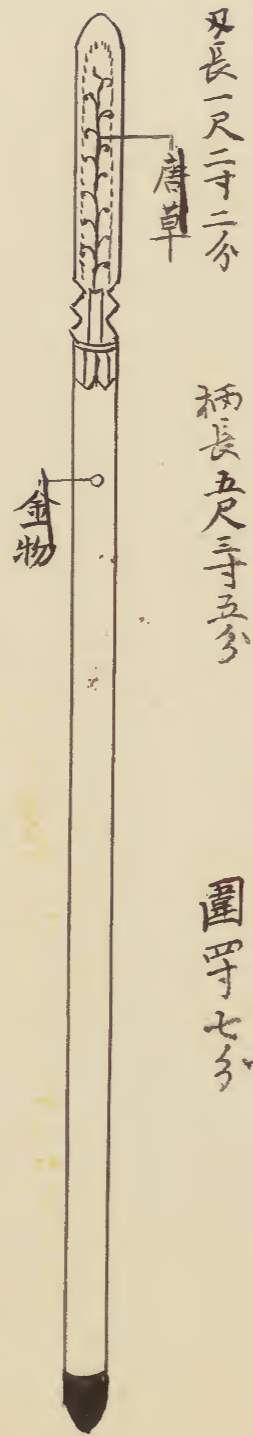
同上





本朝軍器考圖式所載

山城國靜原二宮社藏  
天武天皇御鉞



刃長一尺二寸二分

唐草

柄長五尺三寸五分

圍四寸七分



東大寺寶物圖所載鉞







同上

同上









唐慧琳金光明最勝王經音義云鉞莫  
侯及古文牙字也正體作牙兵器名也  
反韻詮云積小稍也荆楚巴蜀今謂之  
積刀長可丈餘古今正字從牙贊聲  
平盛衰記庭訓往來異制庭訓往來沙石集○本居  
宜長云此方之古書少也戰牙多字少  
保古と云と通と古と書と名と多と手戦と云と天  
ほきてのめと

唐慧琳金光明最勝王經音義云鉞莫  
侯及古文牙字也正體作牙兵器名也  
反韻詮云積小稍也荆楚巴蜀今謂之  
積刀長可丈餘古今正字從牙贊聲  
平盛衰記庭訓往來異制庭訓往來沙石集○本居  
宜長云此方之古書少也戰牙多字少  
保古と云と通と古と書と名と多と手戦と云と天  
ほきてのめと

正誤

日本書紀子アマトホコ冬訓也伊勢平藏貞丈

むと誤ら二ホコトとむ故是玃二拵とニホコト訓  
ノミコトとむ故是玃二拵とニホコト訓  
ニホコトとむ故是玃二拵とニホコト訓  
沿矛と書たり又ホコトとむ故是玃二拵とニホコト訓  
相通と書たり又ホコトとむ故是玃二拵とニホコト訓



古今要覽稿卷第

器財部 武具

金 刀 刀 刀

や里月建武二年三井寺合戦の時土矢間より鑓  
太刀を出して突ける事太平記いふ事あり  
貞和四年十二月日住吉合戦の時阿間了願柄一  
丈計ありけり鑓をとりし事同上いふ事あり  
里前見ふ所ふけき事此時より用をとりし事  
のふりし扱此器も古なるもの制は轉きしもの



ふく歩戦ふも大よ益何ふるも好ふるもと書らるる  
と用ふ一番銃ふと称ふと先陣わたりはつと  
ふくもて當時と武器専用志ねとふと今俗や  
里と訓して銃の字を用ゆるも俗字もて正文  
ふありに遠く海ありをほれやらねあふとあり  
といふふと遣刀とかあふと後よ金遣の字を  
合とて銃志字と作るのて用ゆるふらんと  
伊勢年記いへ里新井君美と銃の字用ゆると  
貞丈説いへ参考太平記長銃といふとあま  
いふとをよ参考太平記長銃といふとあま  
銃の字とあつると穩當なるるも西土に

て用ゆる銃の制と其形類とを故捨字を用ゆる  
と銃ふとといふといふと銃と本の類  
銃と銃と字書ふも何銃と信と何と説かり  
そのつちと文字直銃銃といふあり  
長さも二尺餘室町殿柄一丈計太平記後よ三間  
柄三間半柄ふと其流くにより寸尺もおおしか  
らさるあり  
太平記三井寺云三方の土矢間より銃太刀を差  
出して散くに突けろと直新左衛門尉十六造棄  
てを捨たうけ銃云



又往吉合云其次に一又是も法沙武者の長七尺  
餘ありんと覺きるる阿間了願と名乗る唐綾  
威の籠目小太刀帯柄の長さ一丈計ふみる  
る籠を馬の平頸引添る云  
又新軍京云楯の陰小籠長目の打物の荒を五六  
百人引請へる云  
又紀州龍門云塩谷ハ余里に深く長延して馬小  
箭三筋立籠ふ二知はるはけはる云云  
又羽野後と相公云和田中間走楯籠の柄を  
取延候吃を突く突倒候

又師直以下云吉江小四郎籠を以て胛骨より尤  
の乳の下へ突徹と  
参考太平記住吉合云柄長一丈計二見ハタル鏝  
ヲ云々記家北家南都天云本  
又細川清氏西源院本天心本云爰二備中國住又  
真壁孫四郎是コソ相模殿ヨト見タリケレハ馳  
違様二長鏝ノ柄ヲ取延テ放テ撞二馬ノ草脇ヲ  
ツク  
明德記云滑良兵庫ト覺ユルリ打漏ラスナ兵氏  
長具足ニテ差合大太刀持ハ背口へ廻リスソヲ



切ト下知セラレケレハ五人ハ前ヨリスキモナ  
ク鐘長カニテ支ヘタリ太カ持ハ背口ヘ立廻リ  
臆病金ノハヅレ諸足ヲ戡テソ切タリケル  
下學集云鐘

應仁記云甲斐庄ハ諸家ニ名ヲ得タル勇夫ナレ  
ハ我ニ不劣兵二百計リ引率シ鐘ヲ小膝ニシセ  
テ西ヲ睨テ床本ニ居ス

又云楯ヲ真向ニ指筭敵ノ虎口ヘ突カケテ一二  
百帖ノ楯ヲ捨テ鐘ヲ入レハ東ヨリ東條カ衆二  
千許横鐘ニカ、リケルカ東條カ先陣ニ進テ鐘

ヲ入ル、ヲ討セシト云云

又云佛殿ニ陣取衆ノ鐘前シト口ニ見ヘタルハ  
一定潰ナシト覺ユル也爰ニ二番鐘ヲ造レト云  
モハテガルニ額シカ、レハ敗軍トヨセ合テ鐘  
ヲ釋カン様ソナキ云云

文正記云其外迄于這辺那辺大手搦手堀女垣廊  
中門大庭縁際鐘長カ録熊手鎮突立突旗字引側

御中門ヲ防クヘキ由ヲ下知シ給ス云云又小袖  
江陽屋形年譜



ノ鑑ヲ取テ着シ給フ十文字ノ御鑑ヲ持テ御自  
身御對面所ノ庭ニ立夕ニ七味方ノ勢ヲ下知シ  
玉フ云云將軍コラヘス自鑑ヲ持テ中門へ走り  
向テ勸キ玉フ一四度也云云  
尺素往來云鑑刀長刀及太刀腰刀者昔在月山天  
國雲洞以後得其名云云

應仁別記云一条太閤ノ御孫依為御本領兵庫ニ  
オハシマシケルカ云云敵トヤ思ヒケシ以長鑑  
御心モトフ突通夕テニツリ  
北條五代記云當世切キ鑑也云云云云長く

のべうきとて終行柄入其先子とて付  
柄少く人をつく為威風をふし流  
又云謙隆昔より用は謙也と其詞もとも四  
寸の浦ぐり身の楯もる深き湯をわく大さく  
きくみ出さく片謙さへ利ありとて十文字は猶  
蓋のりとも後に出る也

慕京集云遠目ヤククとろひの乞ソのめしうそ  
見えけふ志がきくめくやとあはせし  
目のよしめきさの男つととあはせし  
村子はく首級とてしと陣もあはせし



んとつらうふふ云

室町殿日記云目代小濱金左衛門六具志とて十  
文字城杖ははきき手と團と持と諸誓小戦入へ  
めりは早く初きとてと下知あけまともむらも  
いと引きつけり

又云毛利元就陶尾張云矢と紀をそはへ鏡とす

浦を造と一人ものつととこの聲とつと

かむ

又云刀祿原八兵衛と名乗と赤草威の鏡と三枚  
冑をるくひは着兼義うちの二人あまうり鏡を

かいあうり馬を馬たたく浦とふあさとの大

房のあきふにうち乗と陳願まかけいと黒系威

鏡梨子打鳥帽子鉢巻蒲黄大総十文字袴云

又云志摩守、陳より黒系威の鏡まふうち

初とまもちまもち栗毛の馬のたけと向とん小

乃りきふも非の大総かけきふと十文字

とを山さけて手綱かいろと志保と陳頭へか

け出云

奇異雜談云中間と肩衣四幅袴と主の笠を首

小かけ手袴をうきけてあうり行



三好成立記云其以時行物十ト云テ持鎗ノ柄ヲ  
四方竹ニ仕ケレハ京童落書ニ阿波武者ハ代々  
ヲ掛テヤ突ヌラシ皆鎗ノ柄ヲ竹ニテゾスル云  
云

和訓栞云全浙兵制小鎗を譯シ戈鎗をかきやり  
也譯キリ使ハ顔をもく名はく不也俗ハ鎗を鎗  
ト書キ訓小ヨリテ造る也也物ヲをヤリト  
いハル事伊勢物語ト云

譚海云和尚中と云けふと我等願ふ所座ハ何事  
ハル鎗も少殊ハ寒けはるハ何卒ハ蓋を給

とと中と云一ハヤハ大炊及鎗持ハ蓋  
賜リける翌年此鎗持侍ハ取立らるト和尚の所へ  
立ヨリ懇々謝シテ云云云云

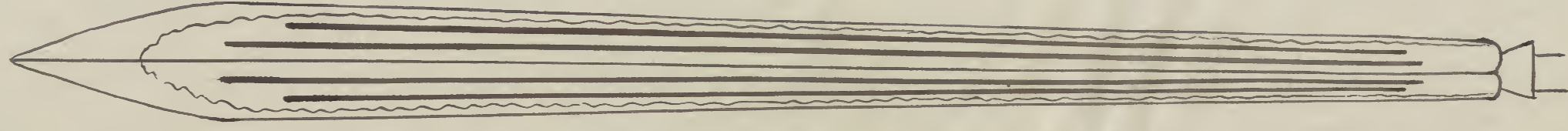
安齊随筆云軍陣ハ獨身のかき紀ハ鎗を合とふ  
と才一トハ也ハ働の強記を養テ事ト古ヨリ  
強カキカキカキカキ故ハ古代の誘ハ云其  
品ハ條あり所謂一番鎗二番鎗小返鎗大返鎗付  
入の鎗城攻の鎗籠城の鎗請留の鎗是ハ一ハ續  
キハ働四條あり一番乘来込鎗脇太刀鎗脇弓此  
外高名七條あり鎗下高名鎗場高名云云







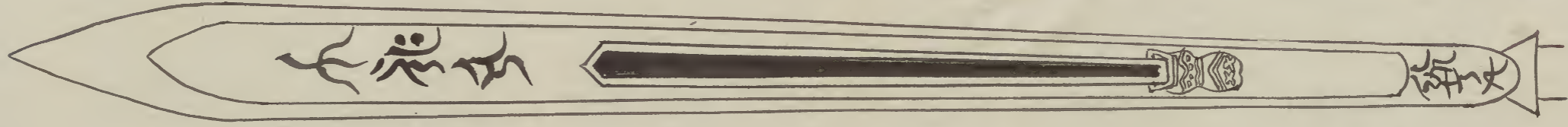
本多忠勝蜻蛉斬鎗圖



穂長一尺四寸幅中三寸二分 中心長一尺八寸五分

裏平作廣樋之内梵字浮劔有 但切梵字也

表鐔作連樋有



重子四分半幅五分

二所目釘先

幅三分半

藤原正真作 ○

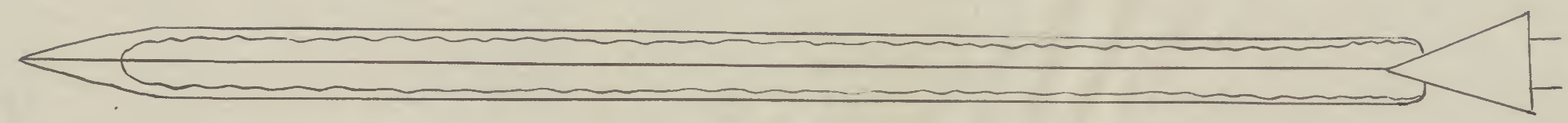
重子二分



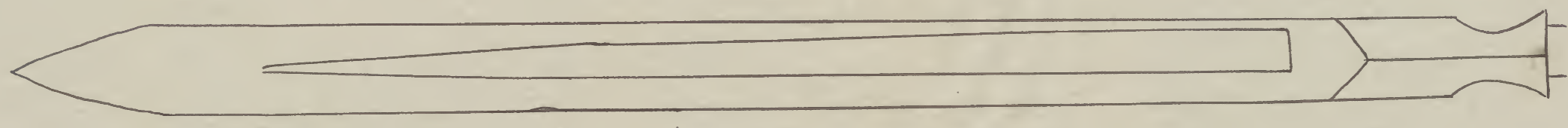




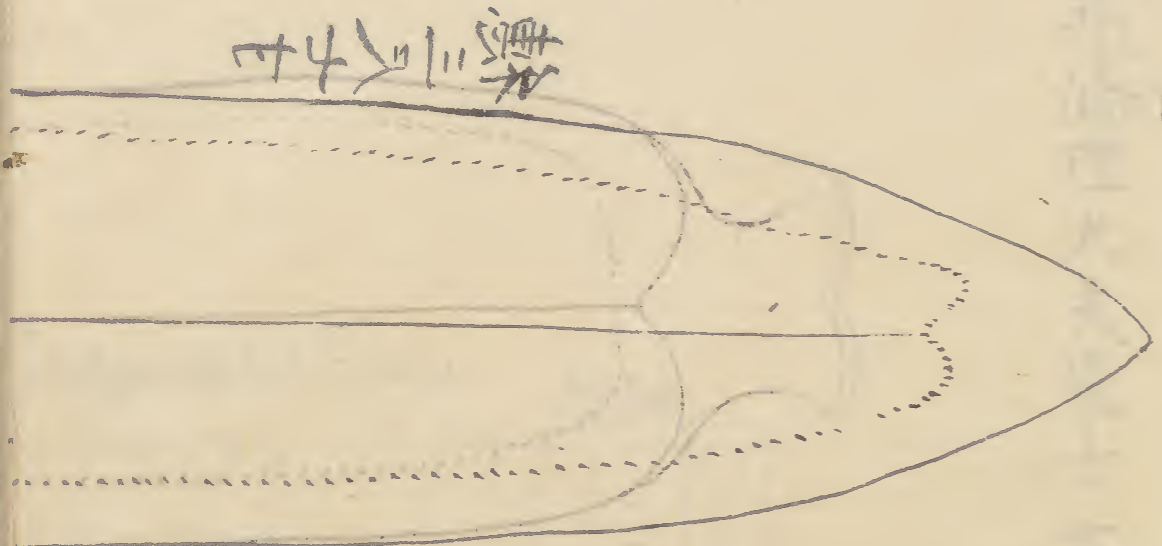
長坂血鎗九郎鎗圖



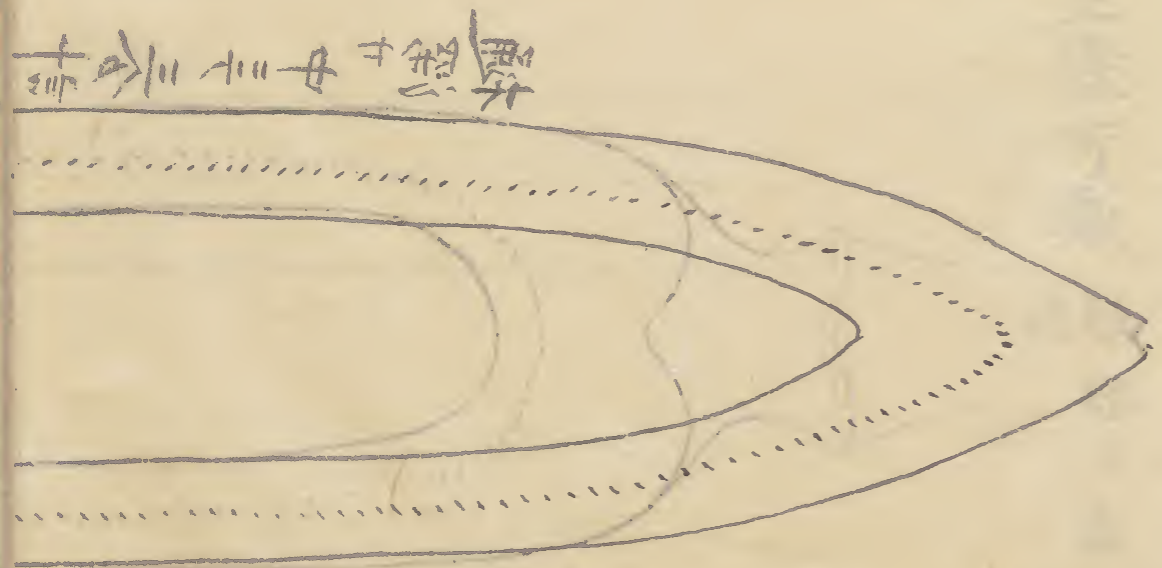
總長三寸五分 中心三寸 幅一寸四分 榎幅中五分朱





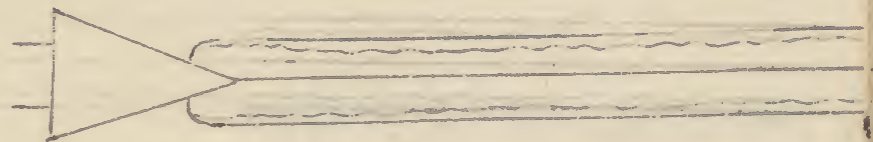


魚三ノカサ

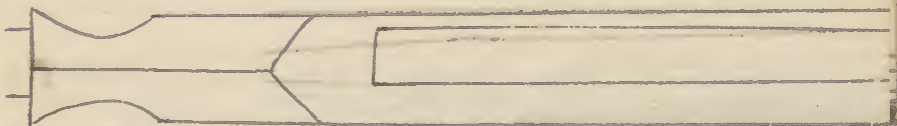


魚三ノカサ

身好無鍔大直鍔圖



魚三ノカサ

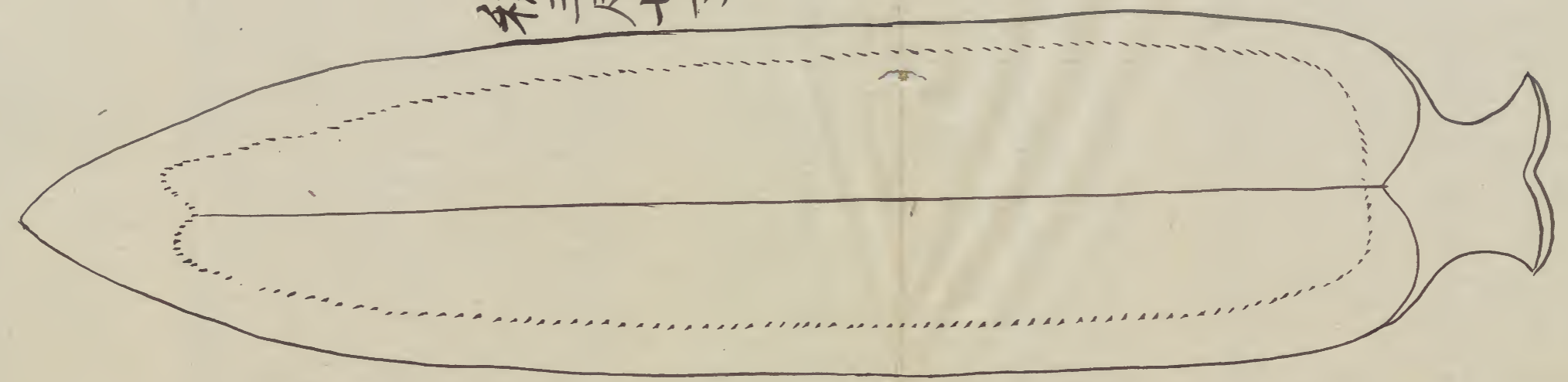




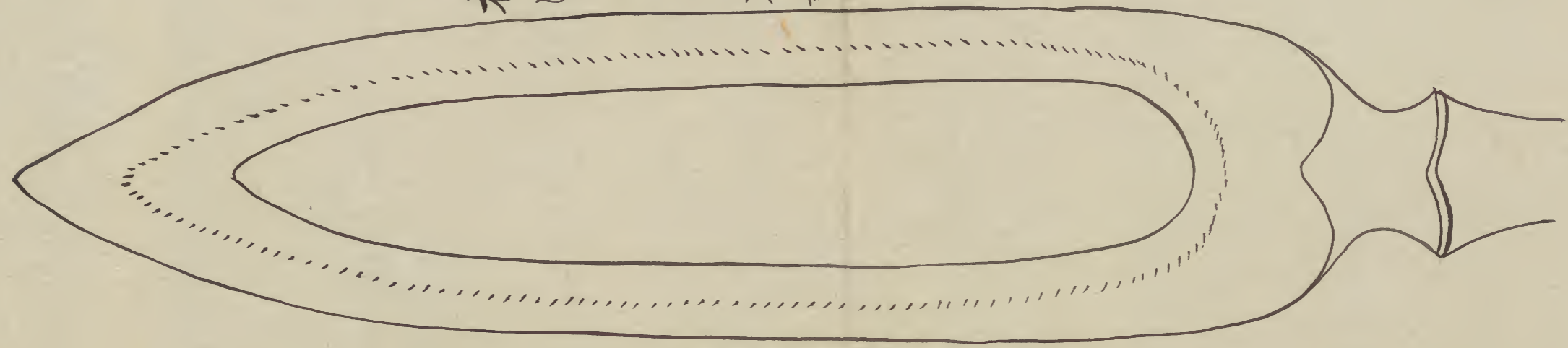
酒井修理大夫家士大谷正澄所藏

鎗服部半藏

總三長七寸

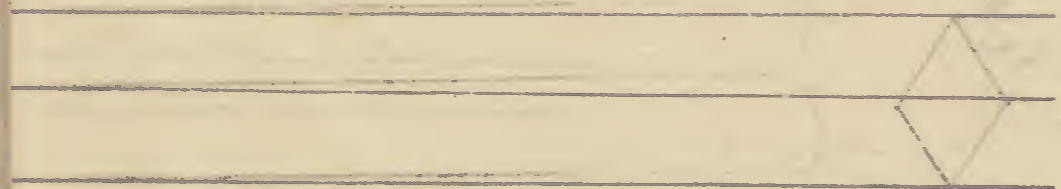
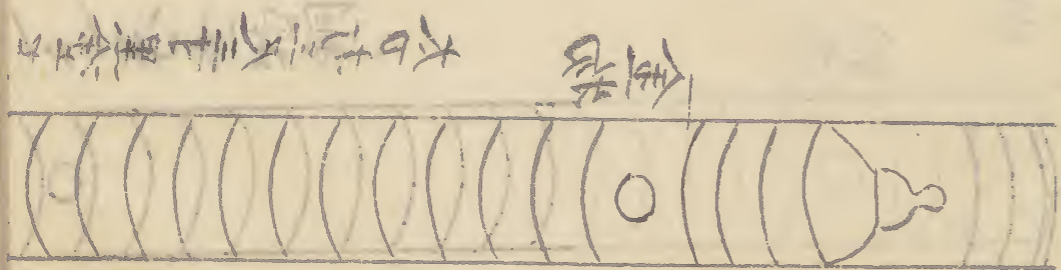


桶深井中三三寸計



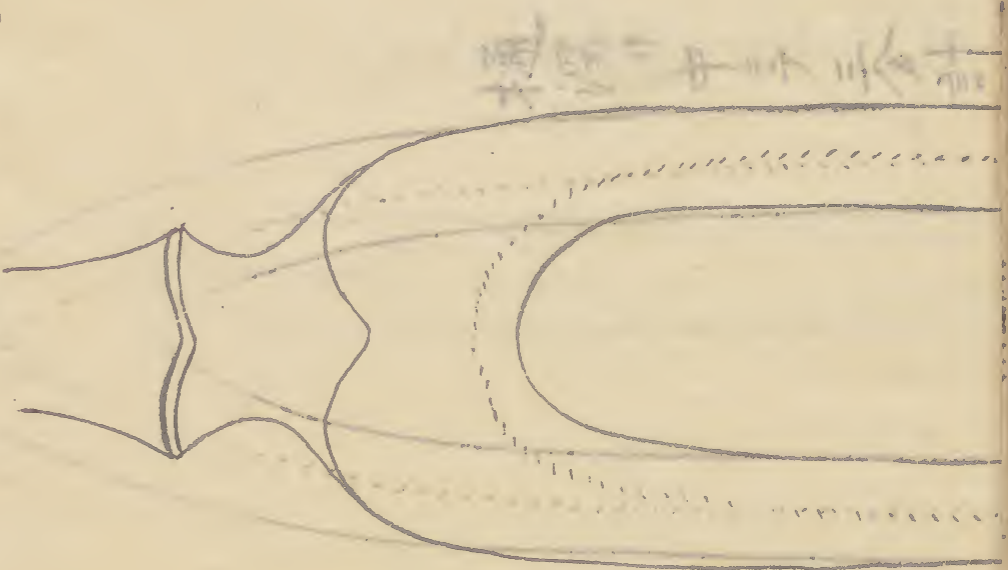
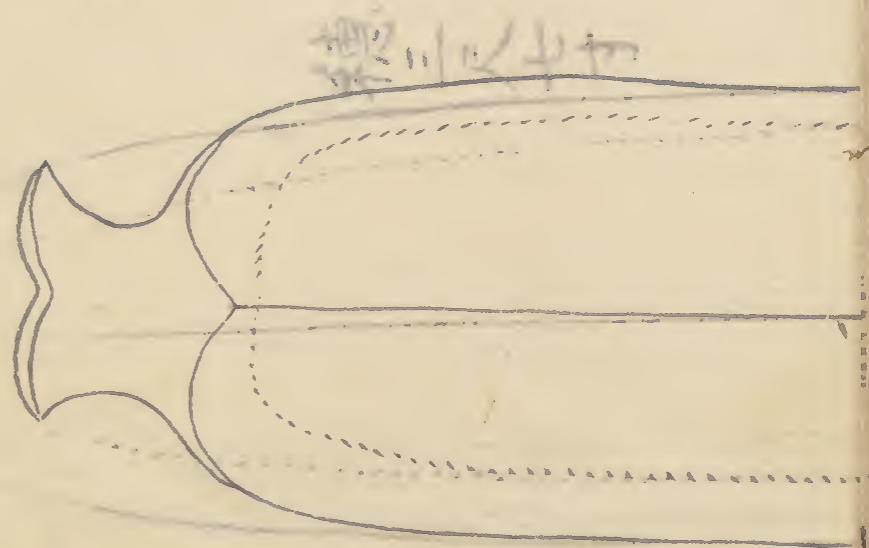


同上柄



大谷五登平藏

大谷五登平藏

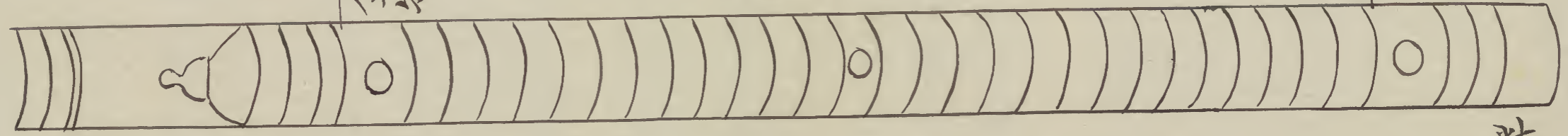




同上柄

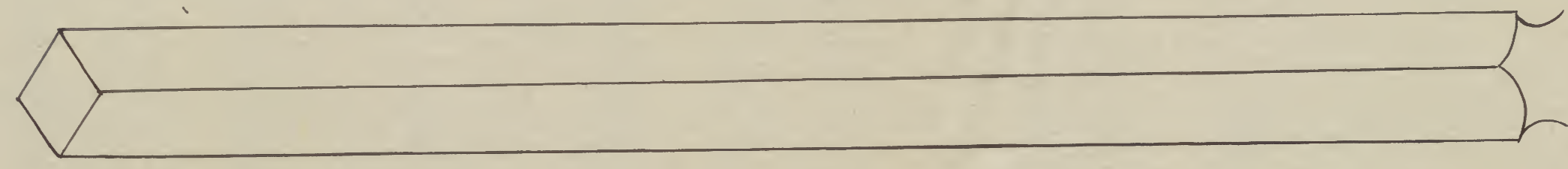
柄ノ  
リ  
○  
五尺五分

金物 太刀打三足手黒塗七二タニ卷金物銅

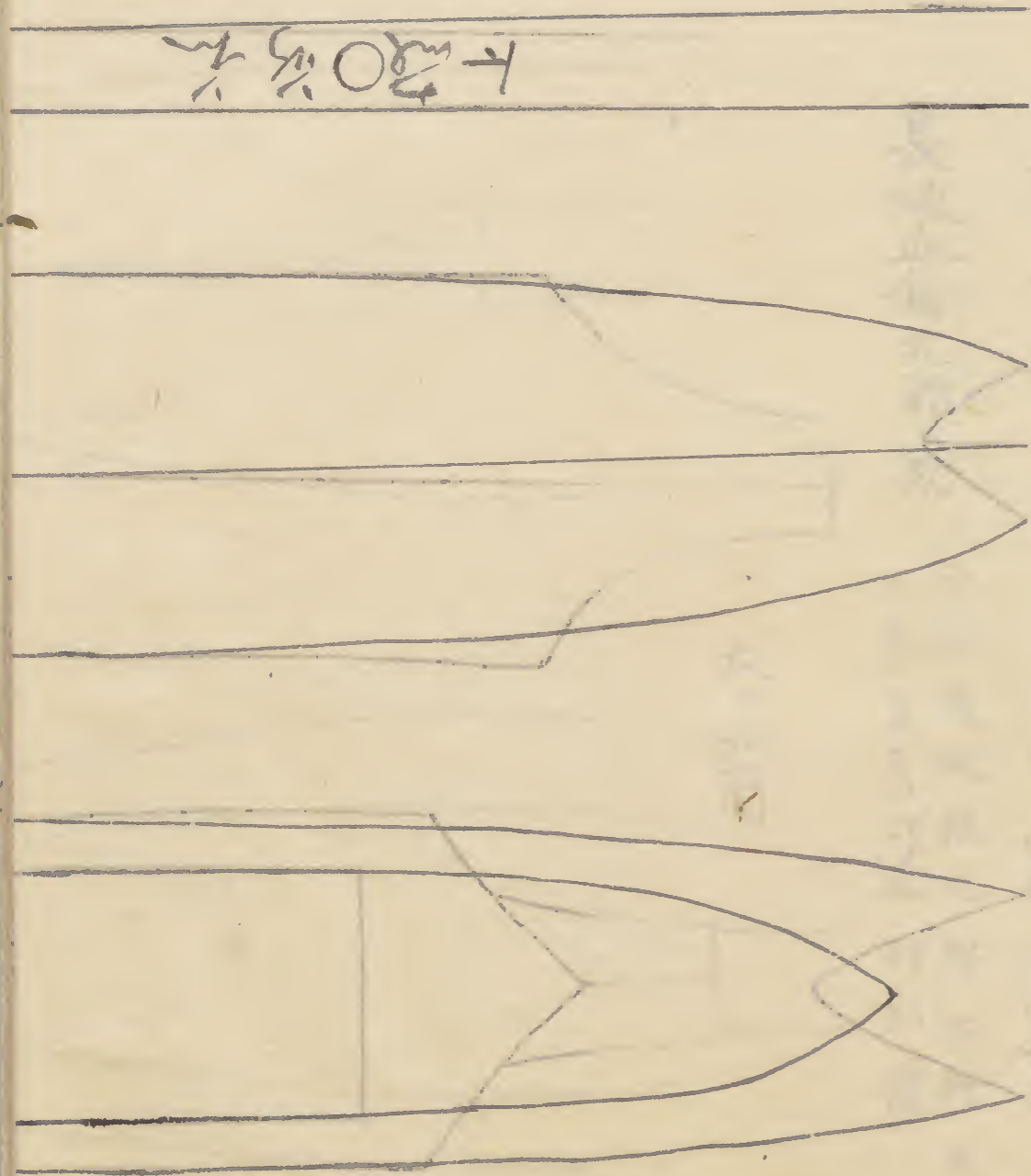


金物

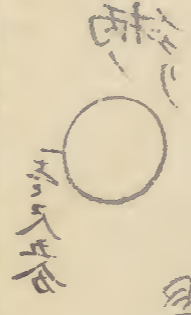
此所ヨリ木地



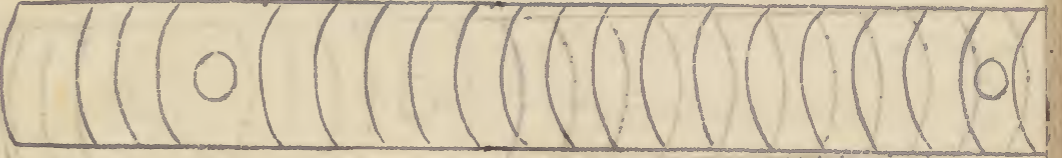




同上柄



針巻

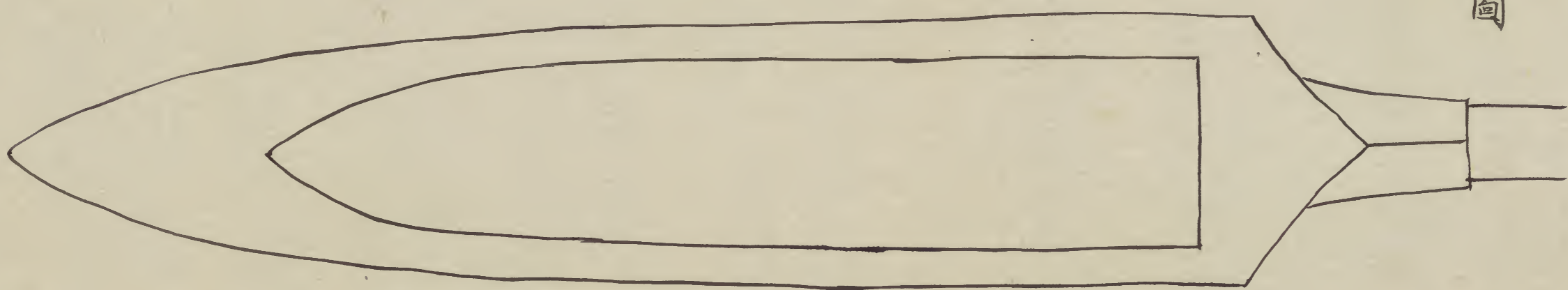
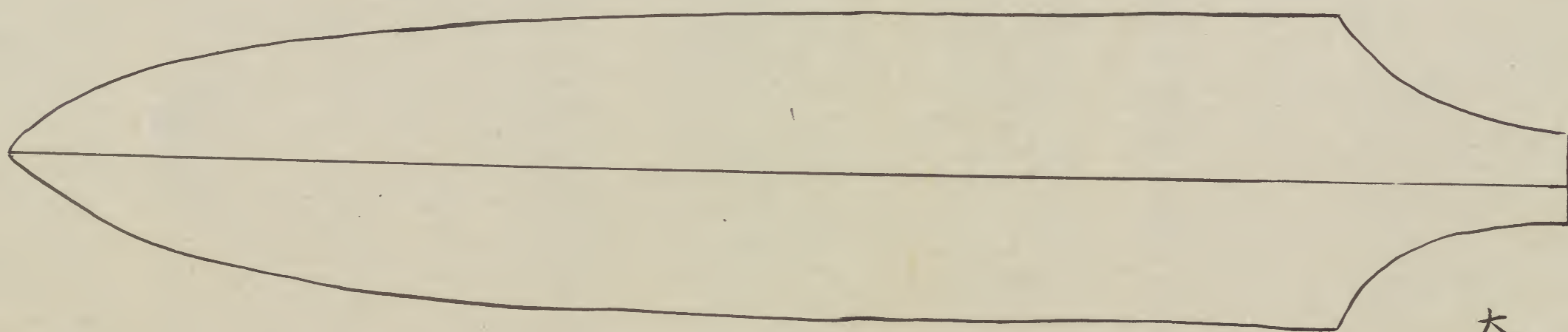


矢筒





下坂流流

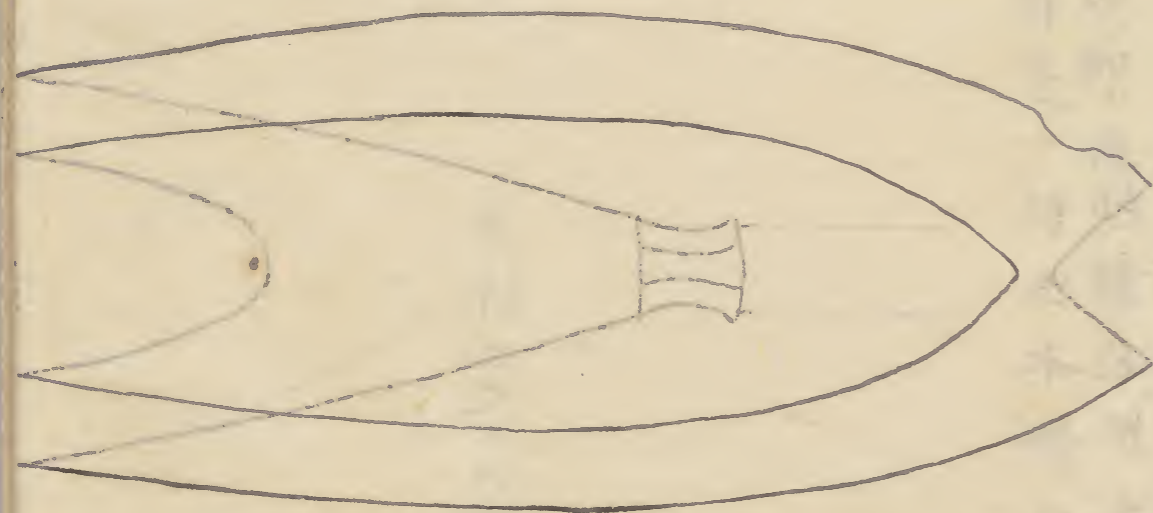
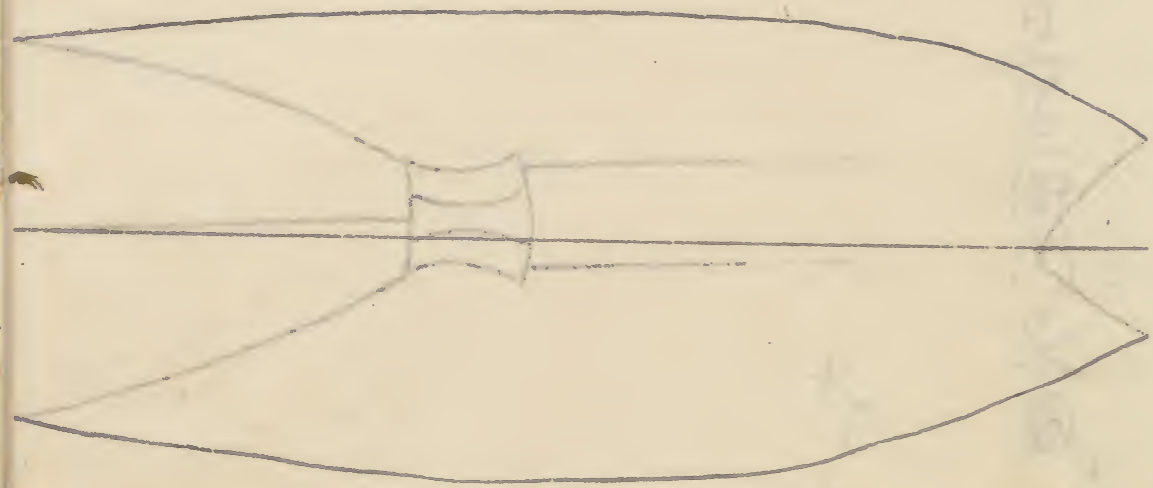


長坂血鎗九郎鎗

子孫長坂權九郎所持天明  
二年貞彦所見形圖

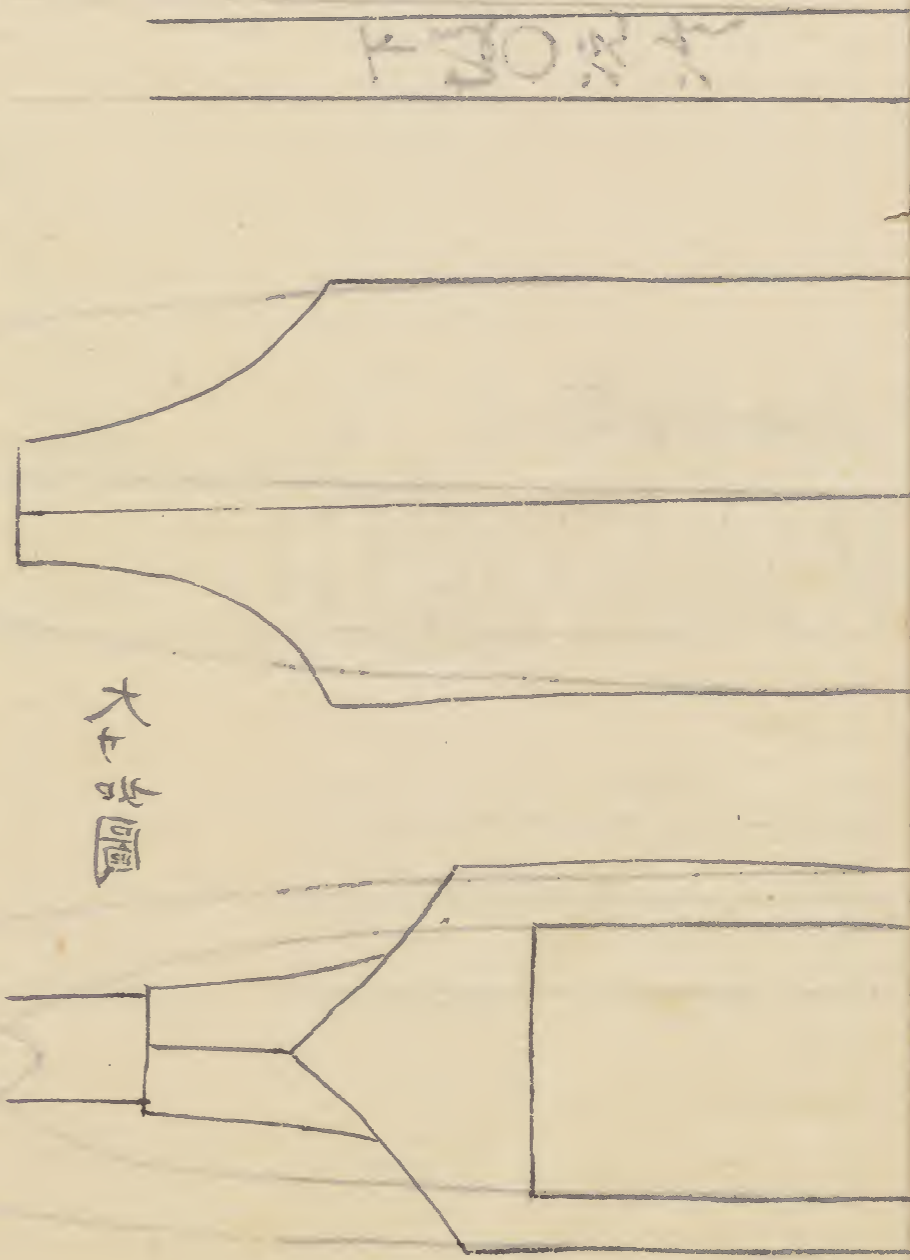
大寸如圖





身如無餘  
下  
有餘

二  
羊  
身  
如  
餘  
下  
有  
餘  
天  
賦



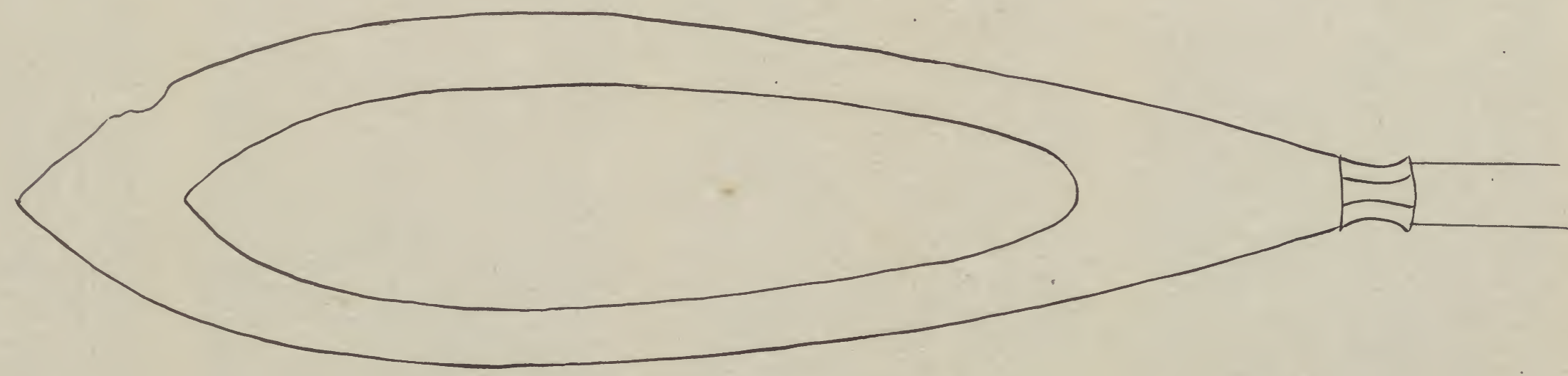
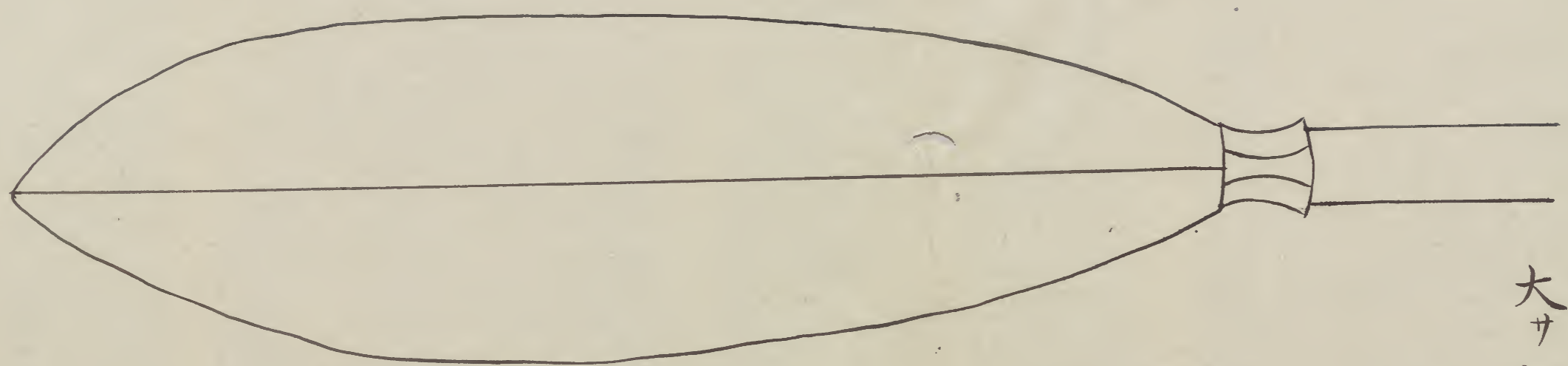
大  
中  
賦  
圖



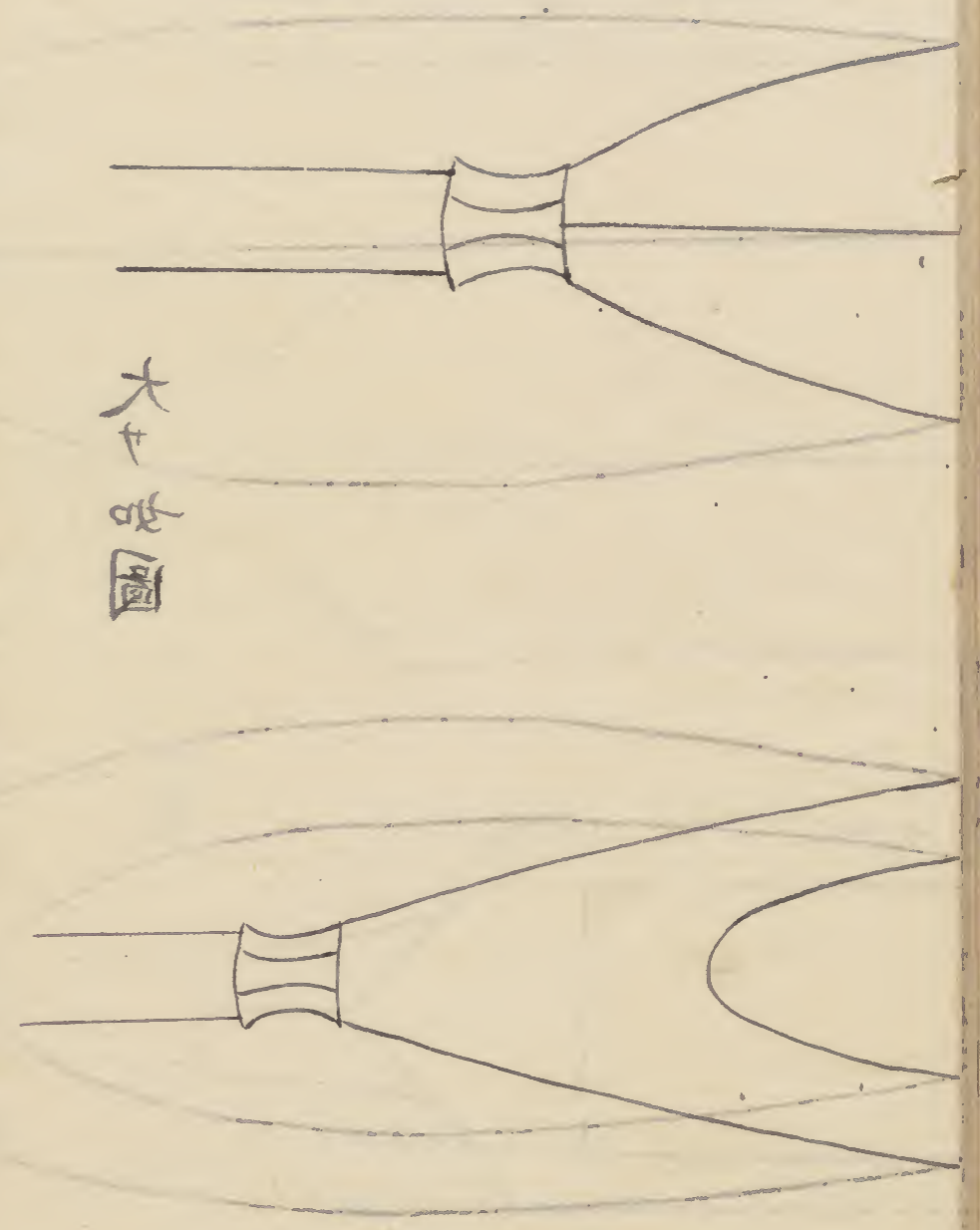
鎮日市左衛門家藏

鎮日半次郎雅明鎗信州上田  
鎗戰ノ時是ヲ持七本鎗之内

大サ如圖

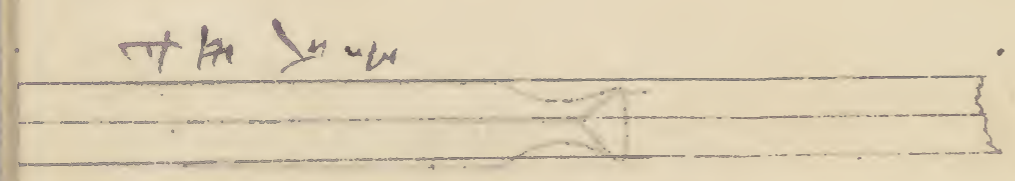






大  
中  
切  
圖

眞日中法衛門家藏  
 鑲輝ノ部是ノ鉄ノ本鑲之内  
 眞日半次有録即鑲計所上田



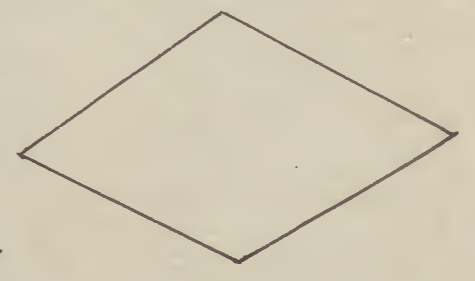
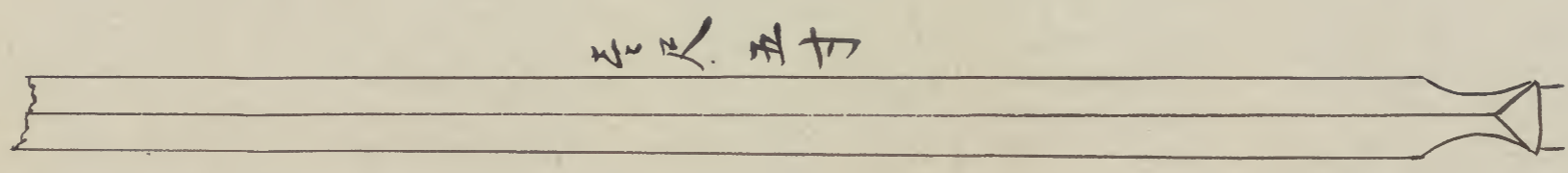
中切



眞日中大切



武州江府淺草東光山松平西福寺之什物服部半藏  
持鎗



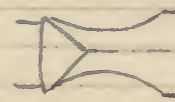
身折口大十如此



鉄鎗

海州五所蔵草東天正平西蘇子之竹吹那持半藏

小口用切

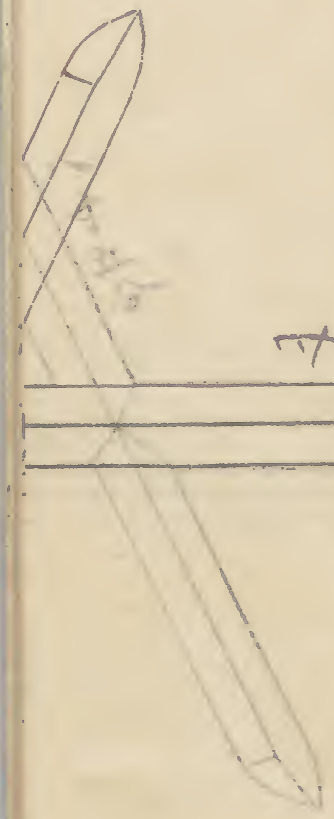


身折口大如此



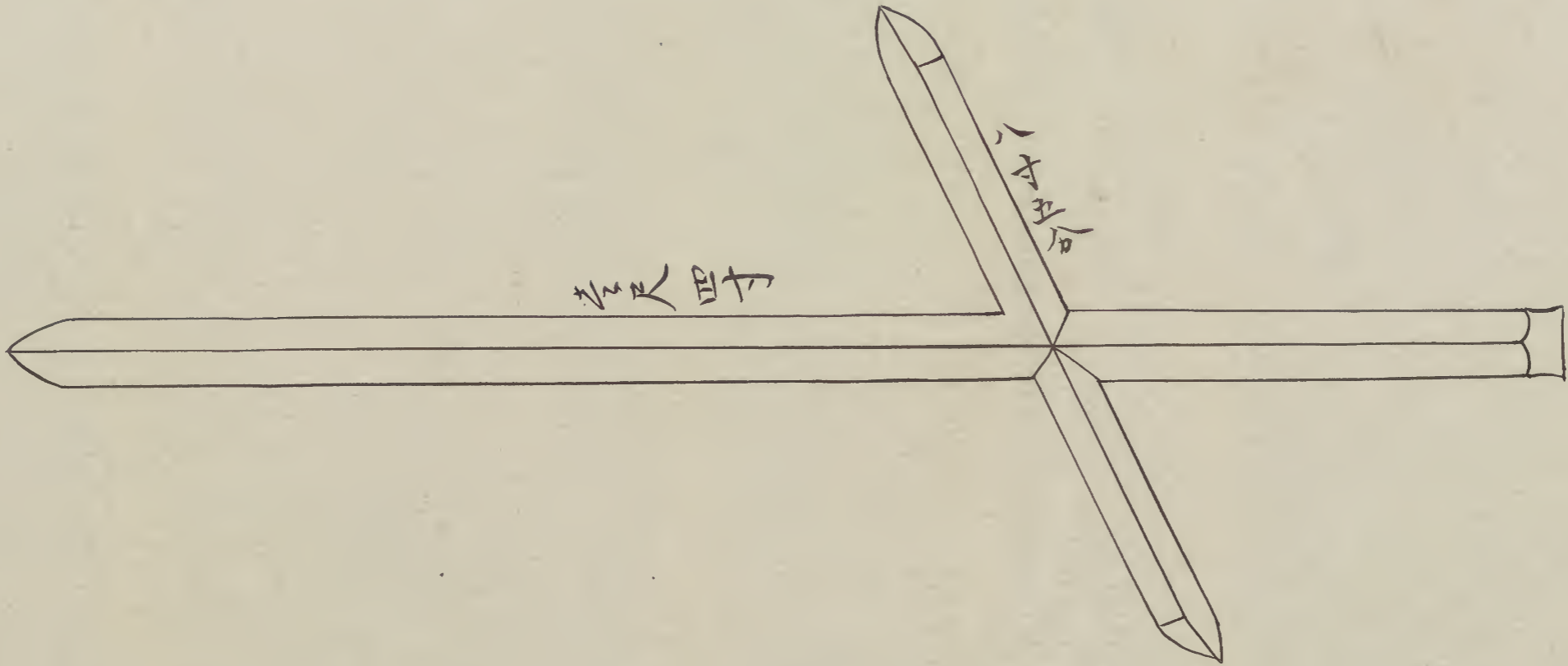
同上西福寺什物南蠻之鎌鎗二筋氏銘アリ身出末ハ

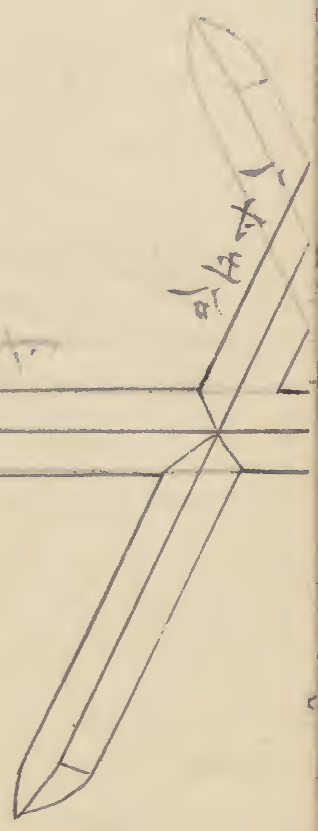
相取目也





同上西福寺什物南蠻之鎌鎗二筋氏銘アリ身出来ハ  
錆ニテ不見





大坂御城中有之

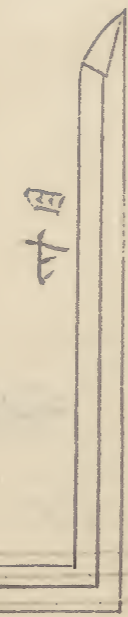
龍三ノ下見

同十西海軍奉行物地銀八無鎧二鎧五鎧ノ二身共表二

友田金平鎧圖

大坂御城中有之

同上

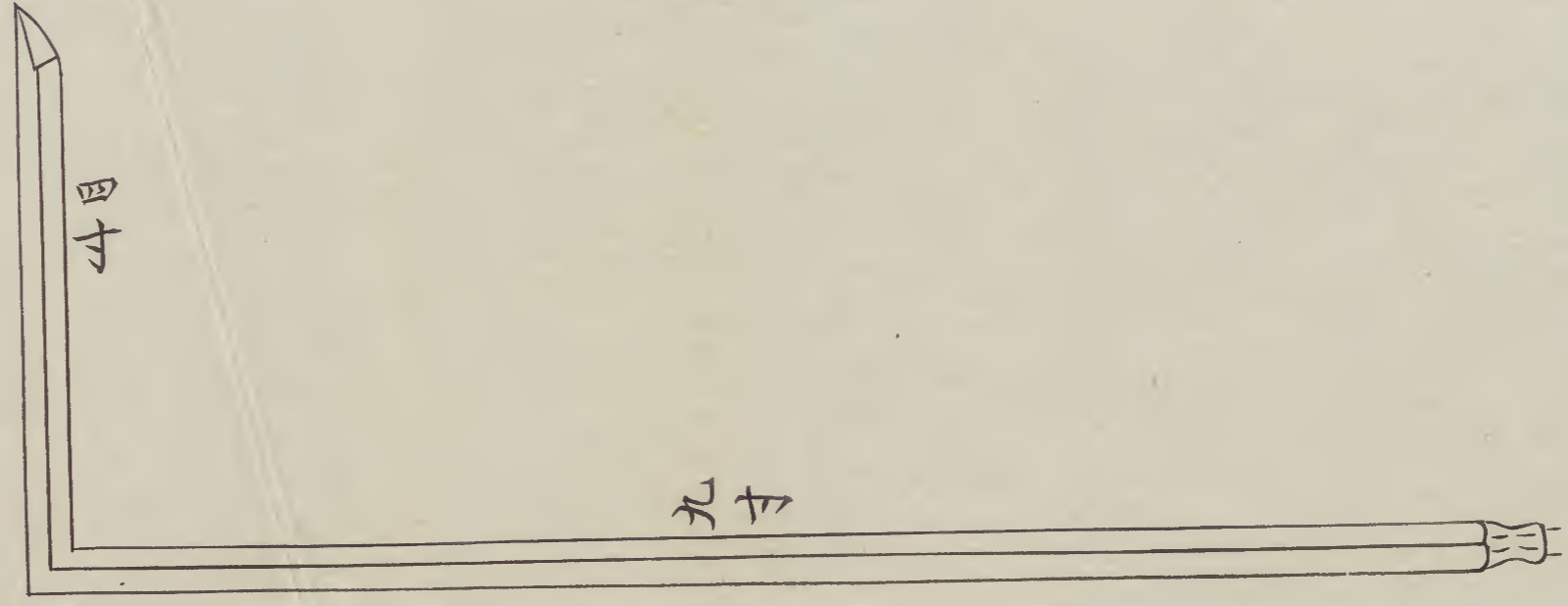


四寸

五寸



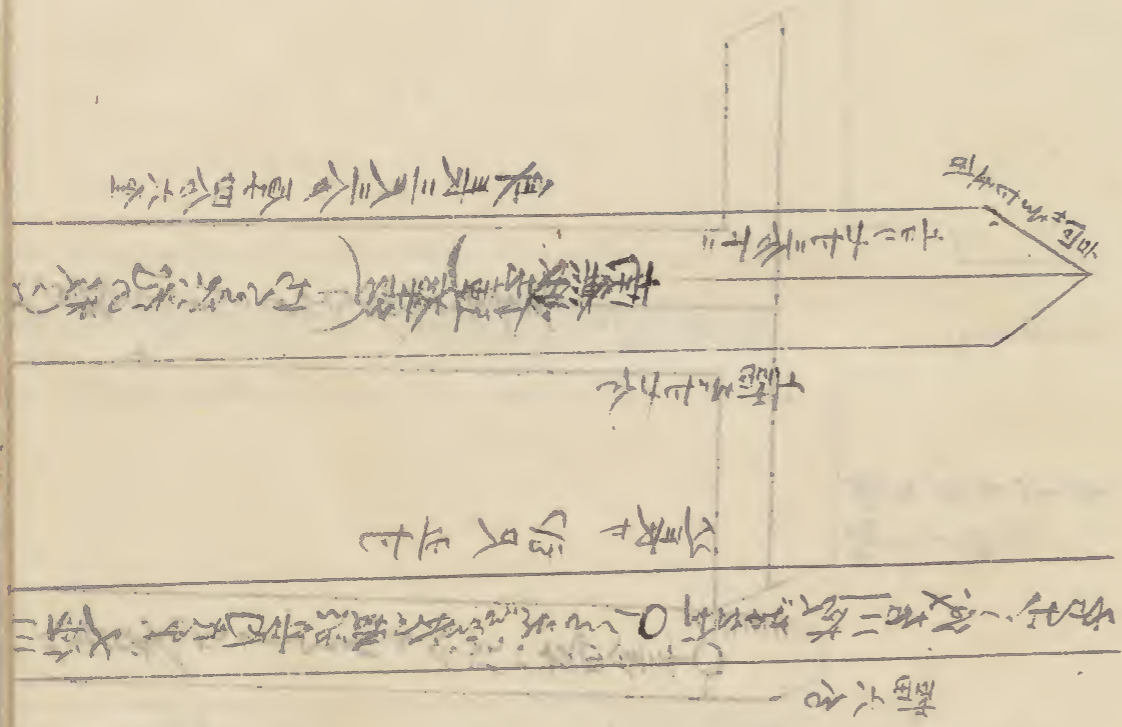
同上



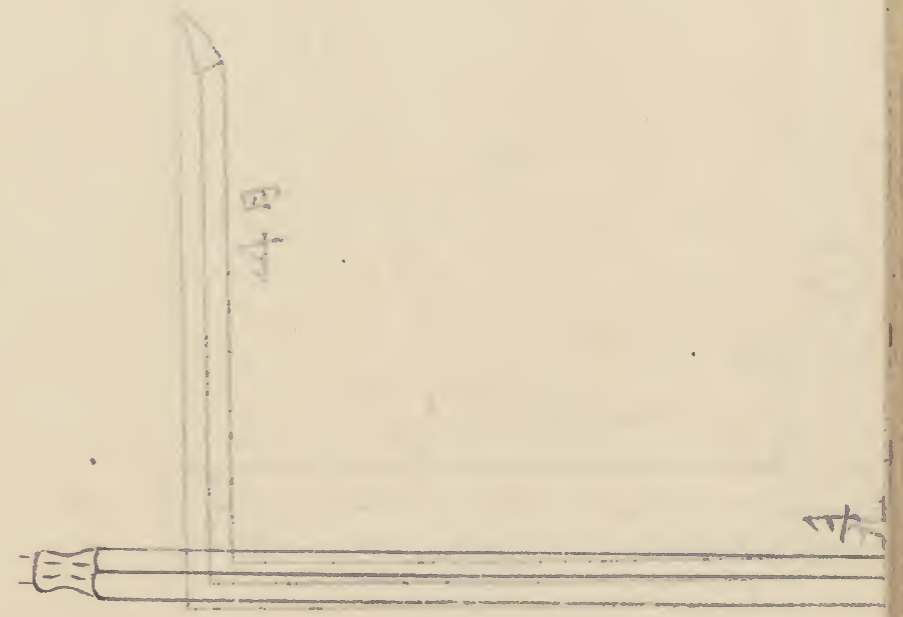
四寸地... 九寸地... 一尺地... 一尺二寸地... 一尺四寸地... 一尺六寸地... 一尺八寸地... 二尺地... 二尺二寸地... 二尺四寸地... 二尺六寸地... 二尺八寸地... 三尺地... 三尺二寸地... 三尺四寸地... 三尺六寸地... 三尺八寸地... 四尺地... 四尺二寸地... 四尺四寸地... 四尺六寸地... 四尺八寸地... 五尺地... 五尺二寸地... 五尺四寸地... 五尺六寸地... 五尺八寸地... 六尺地... 六尺二寸地... 六尺四寸地... 六尺六寸地... 六尺八寸地... 七尺地... 七尺二寸地... 七尺四寸地... 七尺六寸地... 七尺八寸地... 八尺地... 八尺二寸地... 八尺四寸地... 八尺六寸地... 八尺八寸地... 九尺地... 九尺二寸地... 九尺四寸地... 九尺六寸地... 九尺八寸地... 一丈地... 一丈二寸地... 一丈四寸地... 一丈六寸地... 一丈八寸地... 二丈地... 二丈二寸地... 二丈四寸地... 二丈六寸地... 二丈八寸地... 三丈地... 三丈二寸地... 三丈四寸地... 三丈六寸地... 三丈八寸地... 四丈地... 四丈二寸地... 四丈四寸地... 四丈六寸地... 四丈八寸地... 五丈地... 五丈二寸地... 五丈四寸地... 五丈六寸地... 五丈八寸地... 六丈地... 六丈二寸地... 六丈四寸地... 六丈六寸地... 六丈八寸地... 七丈地... 七丈二寸地... 七丈四寸地... 七丈六寸地... 七丈八寸地... 八丈地... 八丈二寸地... 八丈四寸地... 八丈六寸地... 八丈八寸地... 九丈地... 九丈二寸地... 九丈四寸地... 九丈六寸地... 九丈八寸地... 十丈地... 十丈二寸地... 十丈四寸地... 十丈六寸地... 十丈八寸地...

友田金平鎗圖

大坂御城中有之



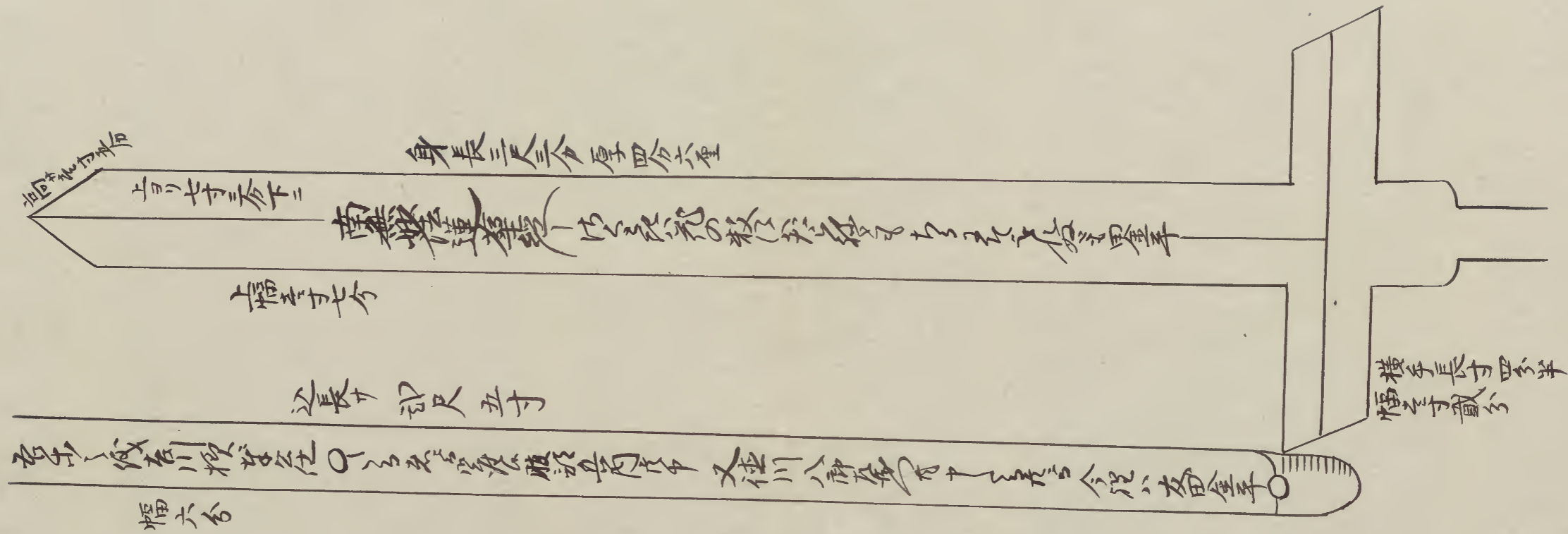
同土





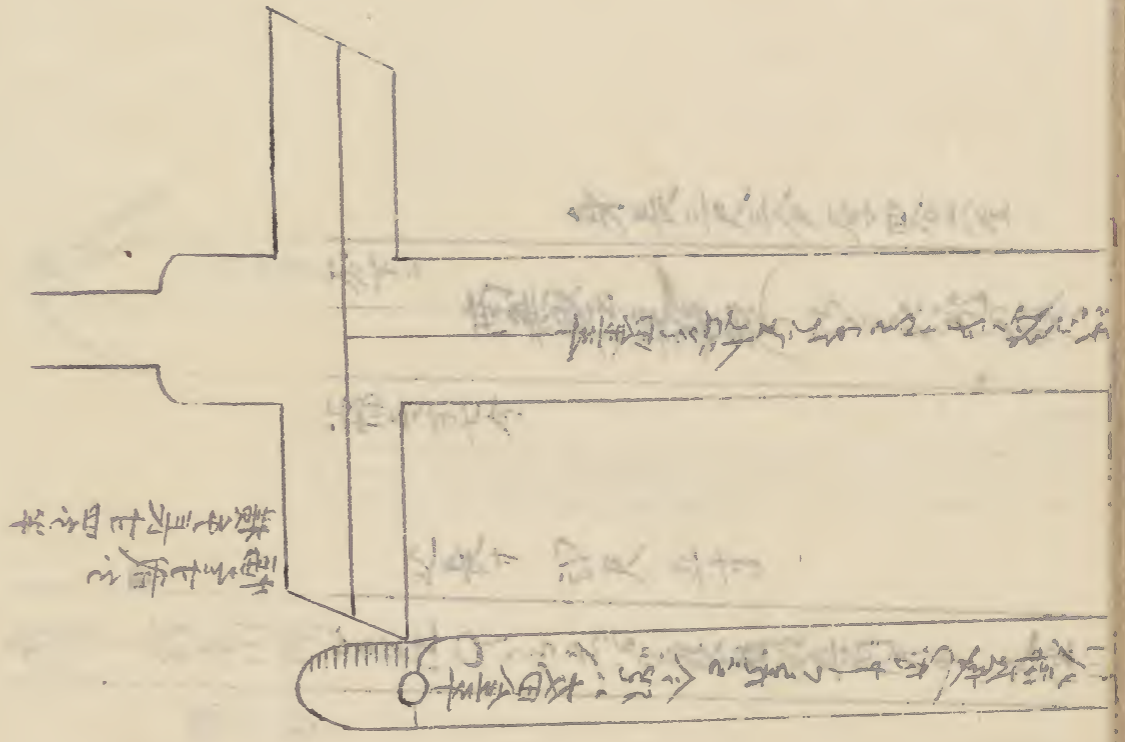
友田金平鎗圖

大坂御城中有之

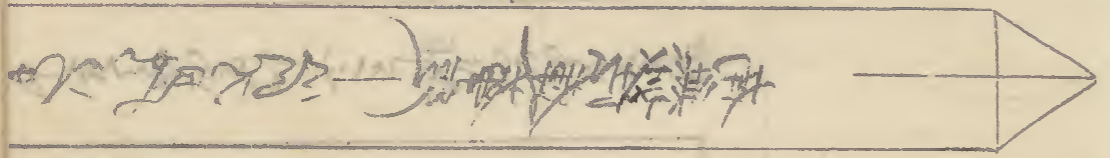


女田金平鍔圖

大坂新田中在り



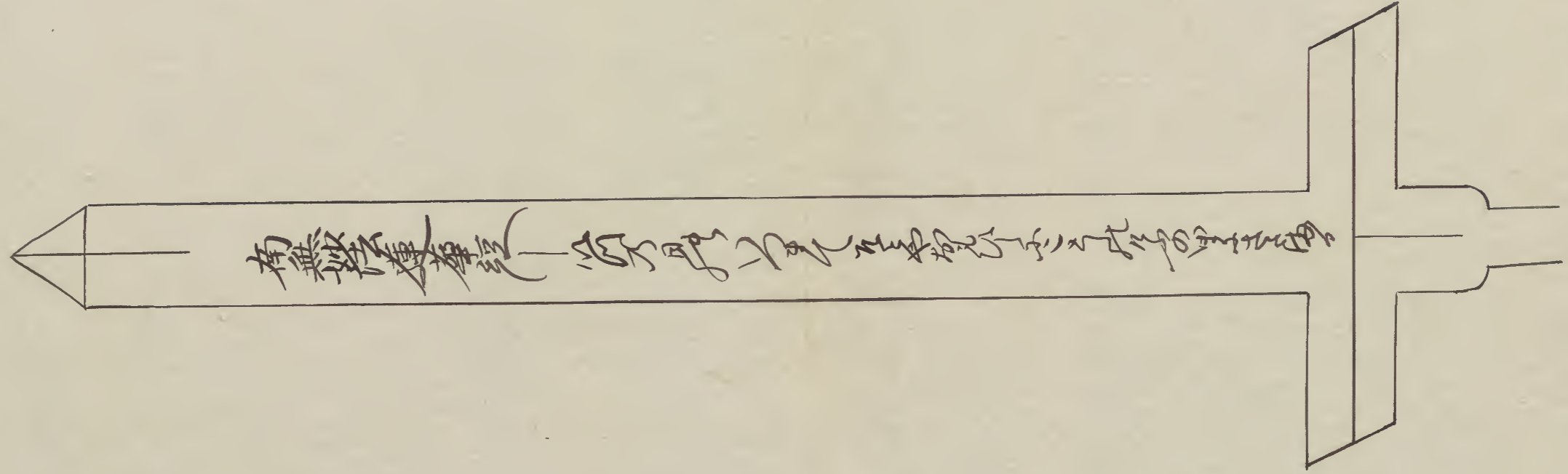
同上裏圖



此は女田金平鍔の裏圖也。○此は女田金平鍔の裏圖也。

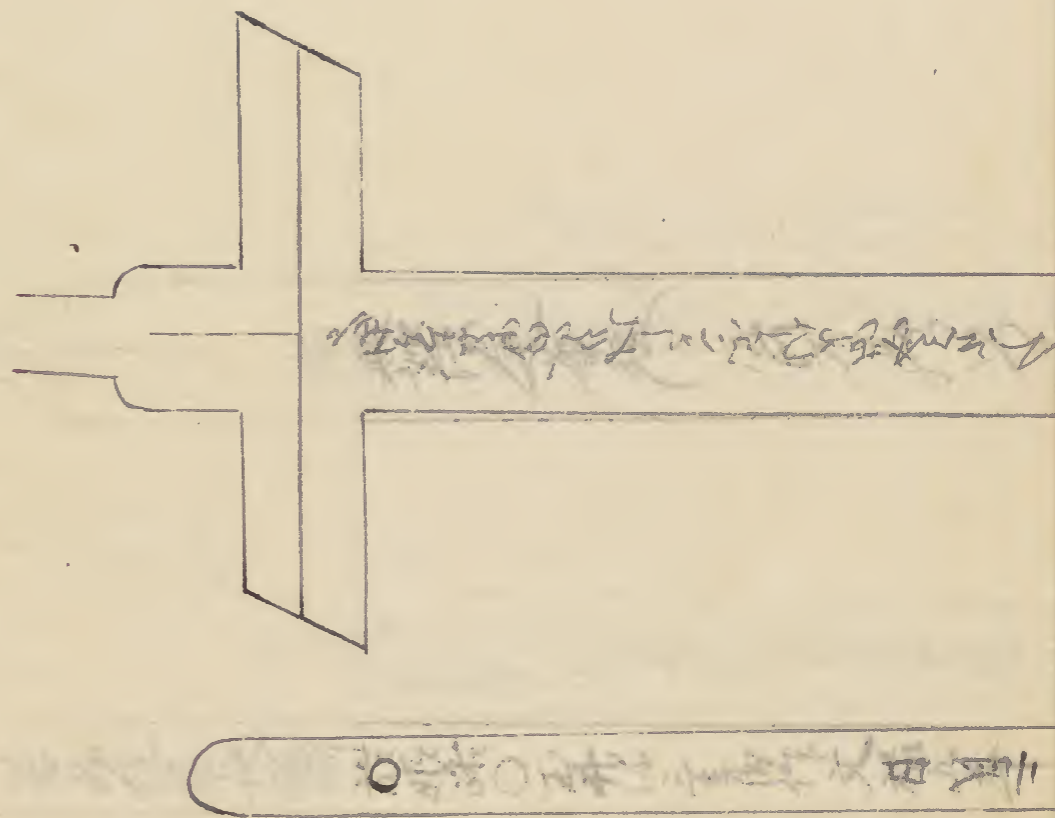


同上裏圖

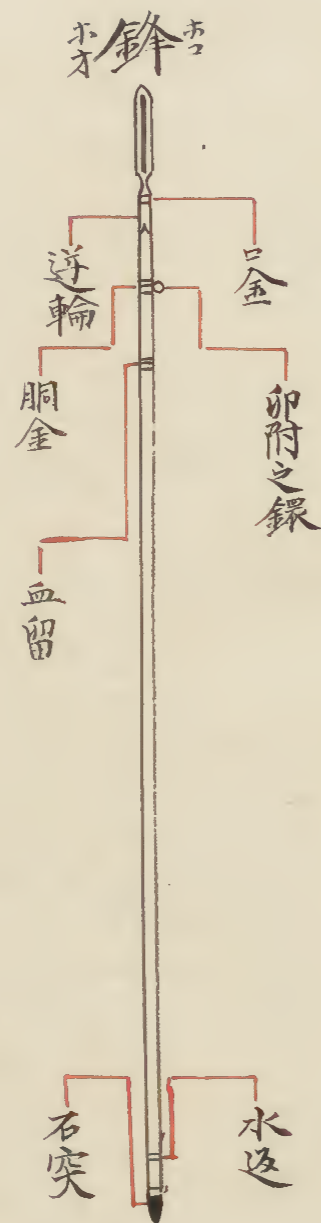


若邪住長播洲於姬路。五拜法華經作文祿五年二月日

同土裏圖



武用辨畧所載







轉丁

今云斤鎌



立劔劔

或云鎌作



山劔

今云曲鋒



月劔

上代鋒共



管鎗 管留

手搦之緒或管之緒共



長鋒

今云大身



徒鎗

或直鎗作



銅叉

或鏡釵

今云十文宗



釋名

尾里 太平記 下学集應仁記 文正記 節用集 ○ 柄長

二天 竹ふと ありと 遠きと 及ぶと ありと ありと ありと

けり ありと ありと ありと ありと ありと ありと ありと

長 鎗 参考 太平記 ○ その 柄 遣 刀 尺 素 往 来 ○ 刀

や 新 義 を 十 文 字 鑑 新 陽 集 室 所 殿 日記 ○ ありと

以 して ありと 釣 鑑 の 糸 柄 五 代 記 ○ 横 小 頭 いか 袴 孫 長 小

来 人 を ありと ありと ありと ありと ありと ありと ありと

江陽屋形年譜







三本朝軍器考圖式云近代利ト云物ノ制  
ハ古ノ戟戈遺制ナルヘキ俗ニ鑓ノ字ヲ作り出  
シテ也利トコニタルト正シキ文ニ見エス源平  
ノ軍以後建武至徳ノ間ニ鑓ヲ用ユルヲ見エス  
應仁文明ノ頃ヨリ其沙汰アリテ鑓鑓片鑓十文  
字直鑓鑓鑓等ノ制出タル也旧遺考録ニハ嘉吉  
ノ頃赤松滿祐教祐京都出走セラレシヲ其所在  
ヲ尋シト云近里在テ寺社ヲ歐シムルノ時利劍  
ヲ竹ノ先ニサシテアヤシキ所々ヲタツ子ト

見エヌルニソ近來長劍ノ利アル事ヲ知テ此物  
ヲエミ出シタルニソアルラン按建武至徳の  
間鑓を用知  
見エヌルニソアルラン太平記ニ鑓を用知  
ハカト  
ニ武用辨畧云或書云鑓ハ古ノ鋒ヲ手長ク作出シ  
タル物ト云説アリ然共上代末書ニ見ス源平ノ  
軍以後建武至徳ノ間ニ合戦度ニ有シニモ鑓ノ  
事所見ナシ應仁文明ノ比ヨリ其沙汰有テ漸種  
種ノ巧夫ニ成タル事トソ  
軍器考圖式  
其にこの記を武用辨畧に記すに  
あやうらうしとのふとあり





Faint handwritten text in Japanese, likely bleed-through from the reverse side of the page, surrounding the seal.





